

CA SYSVIEW® Performance Management

リリース ノート

リリース 13.5



このドキュメント(組み込みヘルプ システムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」)は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社(以下「CA」)により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2012 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA Application Performance Management (CA APM)
- CA DATACOM®/DB (CA Datacom/DB)
- CA Graphical Management Interface (CA GMI)
- CA Mainframe Software Manager (CA MSM)
- CA OPS/MVS® Event Management and Automation (CA OPS/MVS)
- CA Roscoe® Interactive Environment (CA Roscoe)
- CA SYSVIEW® Performance Management (CA SYSVIEW)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for CICS (CA SYSVIEW Option for CICS)
- CA SYSVIEW® Performance Management CA Datacom® Option (CA SYSVIEW CA Datacom Option)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for IMS (CA SYSVIEW Option for IMS)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for TCP/IP (CA SYSVIEW Option for TCP/IP)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for WebSphere MQ (CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ)

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの **Web** サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章：新機能	7
システム環境設定オプション	8
CA SYSVIEW for DB2 コンポーネント	9
zIIP の活用	9
データ収集	10
例外処理	11
ログオンセキュリティパスワードフレーズ	11
 第 2 章：既存機能の拡張	 13
CA Mainframe Software Manager	13
インストール拡張機能	14
ユーザ代替可能なモジュール	15
管理	15
メイン サービス アドレス空間	15
SMF レコード	15
追加されたパラメータライブラリ メンバ	16
パラメータライブラリ データ セット メンバ GROUPS	16
パラメータライブラリ データ セット メンバ LINECMDS	17
パラメータライブラリ データ セット メンバ OPTIONS GSVXGSVX	17
パラメータライブラリ データ セット メンバ SYSVIEW	18
パラメータライブラリ メンバ XSYSTEM	18
オプション	18
ベース製品の拡張機能	18
Option for CICS	54
CA DATACOM Option	78
DB2	81
Option for IMS	83
CA Roscoe コンポーネント	94
TCP/IP オプション	95
Option for WebSphere MQ	103
CA APM 統合	109
コンポーネント	110

オーディット イベント コンポーネント.....	110
CA グラフィカル管理インターフェース	112
セキュリティ.....	117
REXX 環境.....	121
ユーザ定義ディスプレイ	121
ユーザ定義コマンド	122
ダッシュボード	124

第 1 章：新機能

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[システム環境設定オプション](#) (P. 8)

[CA SYSVIEW for DB2 コンポーネント](#) (P. 9)

[zIIP の活用](#) (P. 9)

[データ収集](#) (P. 10)

[例外処理](#) (P. 11)

[ログオンセキュリティパスワードフレーズ](#) (P. 11)

システム環境設定オプション

システム環境設定オプション メンバは、CA SYSVIEW の初期化中に設定オプションを設定するために使用されます。システム環境設定オプション メンバは、システム parmlib データ セットの連結にあります。

例: SYS1.PARMLIB

サブシステム ID を、z/OS システムまたは LPAR 内の CA SYSVIEW の各インスタンスまたはインストールへ割り当てます。

4 文字の SYSVIEW サブシステム ID (SSID) は、System Configuration Options システム parmlib メンバを指定するために使用されます。

Member name = GSVXssid

メンバ名の最初の 4 文字は、常に GSVX です。

例: SYSVIEW subsystem ID = GSVX

Member name = GSVXGSVX

デフォルトの SYSVIEW サブシステム ID は GSVX です。

SYSVIEW の複数のインスタンスを単一の z/OS システムにインストールできます。SYSVIEW のこれらのインスタンスは同じか別のリリースレベルになる可能性があります。

- 同じリリースレベルの複数のインスタンスは、SYSVIEW サブシステム ID または System Configuration Options メンバを共有 できません。同じリリースレベルで実行される各 SYSVIEW へ一意のサブシステム ID を割り当てます。
- 別のリリースレベルの複数のインスタンスは、SYSVIEW サブシステム ID および System Configuration Options メンバを共有できます。

SYSVIEW の複数のインスタンスが同じサブシステム ID でインストールされる場合、それらのインスタンスは同じ SYS1.PARMLIB メンバ GSVXssid でそれらのシステム環境設定オプションを指定します。

以下の構造内の各インスタンスのオプションを囲んで、リリース別にオプションを分けます。

インスタンスに対して一意でないこれらのオプションは複数のインスタンスで共有でき、"IF" ステートメント内にある必要はありません。


```
option1  
option2
```

CA SYSVIEW r13.5 より前のリリースでは、SYSVIEW GEN モジュールによってシステム環境設定オプションを指定していました。GEN モジュールは、現在使用されなくなっています。

CA SYSVIEW for DB2 コンポーネント

新規 DB2 コンポーネントが CA SYSVIEW に追加され、ユーザが DB2 サブシステムをモニタできるようになりました。モニタリングは、製品 CA Insight for DB2 との統合によって提供されます。製品 CA Insight for DB2 のライセンスを取得済みであり、インストールされていることを確認します。

zIIP の活用

IBM では、zIIP プロセッサ (z/architecture Integrated Information Processor) として知られているオプションの専用プロセッサ タイプを提供しています。zIIP プロセッサでは、特定タイプの作業を汎用プロセッサまたは CP からオフロードできる可能性があります。

以下の CA SYSVIEW コンポーネントは zIIP の活用で有効です。

- CA SYSVIEW メイン サービス アドレス空間
- CA SYSVIEW ユーザ インターフェース アドレス空間
- CA SYSVIEW 補助サービス アドレス空間
- CA SYSVIEW for CICS データ収集

CA SYSVIEW zIIP Exploitation では、CAIRIM の CA zIIP Enablement Services が必要です。

注: 詳細については、「*Administration Guide*」を参照してください。

データ収集

CA SYSVIEW のデータ収集プロセスでは、z/OS、CICS、IMS、WebSphere MQ および TCP/IP など、サポートされているすべてのコンポーネントのメトリックを収集およびモニタします。

データ収集には、イベント ベースおよびインターバルを使用したサンプリングが含まれます。

CA SYSVIEW イベント スケジューラは、以下のようにしてデータ収集プロセスを制御します。

- スケジューラは、一定の間隔でイベントをスケジュールする機能を提供します。
- スケジュールされたイベント定義をカスタマイズして、収集間隔を制御できます。たとえば、1 日の内の時間および曜日を制御できます。
- スケジューラは、収集されるデータおよび収集頻度を制御します。

データ収集頻度を設定できることに加えて、収集される個々のメトリックを選択できます。CA SYSVIEW データ コレクタ コンポーネントは、多くのリソースおよびメトリックを収集、モニタし、それらに対する例外処理を行います。

一部のサイトでは、ユーザは収集可能なリソースおよびメトリックに関するデータをすべて収集することはありません。このような状況で不要なメトリックの収集を行うことは、重要なシステム リソースおよび CPU サイクルの浪費になります。

不要なデータ収集メトリックを無効にすることで、CPU サイクル、およびデータ収集でデータ スペースが使用するストレージ量を減らすことができます。データ スペースストレージを減らすと、SYSVAAST データ アンカー アドレス空間が使用する実ストレージ量も減らすことができます。

注: 詳細については、「*Administration Guide*」を参照してください。

詳細については、以下のオンライン ヘルプ トピックを参照してください。

- Data collection the CA SYSVIEW scheduler controls
- Enable and disable data collection

例外処理

CA SYSVIEW 例外またはアラート定義の機能が追加され、以下の新規属性が追加されました。

- Exception priority
- Start time
- End time
- Day of the week

週の時間および曜日属性により、最初のシフトおよび 2 番目のシフトなど、1 日を通じて変更になる可能性のある例外定義を複数作成することができます。

ログオン セキュリティ パスワード フレーズ

CA SYSVIEW にログオンする際に、パスワードまたはパスワードフレーズを入力できます。パスワードフレーズに指定できるのは、最大 100 文字です。

SAF セキュリティ パッケージもパスワード フレーズをサポートする必要があります。個別ユーザの SAF セキュリティ プロファイルでは、パスワード フレーズのサポートが有効になっている必要があります。

第 2 章：既存機能の拡張

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Mainframe Software Manager](#) (P. 13)

[インストール拡張機能](#) (P. 14)

[ユーザ代替可能なモジュール](#) (P. 15)

[管理](#) (P. 15)

[オプション](#) (P. 18)

[コンポーネント](#) (P. 110)

CA Mainframe Software Manager

以下の機能が CA MSM r3.0 用に追加されました。

- **Software Deployment Service (SDS)** - このサービスを利用すると、ユーザの企業内のシステムに CA のメインフレーム製品を展開できます。
- **データベース移行ツール** - このツールを使用すると、CA MSM のアップグレード後に、ユーザの現在の CA MSM データベースを移行できます。
- **自動ダウンロードスケジュール** - このツールを使用すると、製品のアップデートや製品リリースを定期的にチェックして自動的に入手できます。

注：詳細については、製品のインストールに関する説明と、「*CA Mainframe Software Manager Product Guide*」を参照してください。

インストール拡張機能

インストールプロセスが機能強化されました。

- **SYSVIEW ロード ライブラリ**

CA SYSVIEW ロード ライブラリには、DSNTYPE LIBRARY (PDS/E) で割り当てられているデータセットを必要とするプログラムオブジェクトが含まれます。

- **CA SYSVIEW for CICS 端末インターフェース**

- CICS リソース定義が提供され、CICS トランザクション SYSV が代替画面サイズで実行できるようになりました。
- サンプル定義が parmlib メンバ CICSCSD に追加されました。
- CICS 端末インターフェースは、すべての CA SYSVIEW インストールに含まれています。このインターフェースでは、オプション CA SYSVIEW for CICS は必要ありません。
- SYSV のトランザクション定義は PROFILE GSVXALTS を指定します。このプロファイルによって、SYSV トランザクションを代替画面サイズとして実行できます。SYSV トランザクションが代替画面サイズとして実行されることが望ましくない場合は、"PROFILE(GSVXALTS)" パラメータを削除します。
- 複数のトランザクションを定義して、GSVXCICS プログラムを実行できます。プライマリ用に 1 つおよび代替画面サイズ用に 1 つ。

- **プロファイルの定義**

```
DEFINE PROFILE(GSVXALTS)
    SCRNSIZE (ALTERNATE)
    UCTRAN (NO)
    GROUP(SYSVIEW)
```

- **トランザクションの定義**

```
DEFINE TRANSACTION(SYSV)
    PROGRAM(GSVXCICS)
    PRIORITY(250)
    SPURGE(YES)
    TPURGE(YES)
    RUNAWAY(0)
    TASKDATAKEY(CICS)
    TASKDATALOC(BELOW)
    PROFILE(GSVXALTS)
    GROUP(SYSVIEW)
```

ユーザ代替可能なモジュール

以下のモジュールは、ユーザによって代替可能です。

- GSVBSSID - デフォルトの SYSVIEW サブシステム ID

GSVBSSID モジュールには、デフォルトの CA SYSVIEW サブシステム ID が含まれます。CA SYSVIEW セッションを呼び出す際にサブシステム ID が指定されない場合、モジュール GSVBSSID のコンテンツが使用されます。

このモジュールは、SYSVIEW の複数インスタンスの実行、またはデフォルトのサブシステム ID の GSVX 以外への変更を簡易に行えるように提供されています。

- GSVBUXLT - ユーザ変換テーブル

管理

CA SYSVIEW 管理機能が拡張されました。

メイン サービス アドレス空間

以下のサブタスクがメイン サービス アドレス空間から削除されました。

- GETJOBID - JES ジョブ ID サービス タスクを取得します。GETJOBID タスクは必要なくなりました。
- LOG - SYSLOG 情報収集タスク。LOG タスクは、z/OS 1.11 では必要なくなりました。

SMF レコード

CA SYSVIEW ではオプションで SMF レコードを作成できます。レコードレイアウト、DSECT は `sysview.CNM4BMAC` データセットで配布されます。以下のテーブルでは、デフォルトの SMF タイプ 255 サブタイプ レコードについて説明し、それらが配布されるマクロ ライブラリを示します。

サブタイプ	マクロ ライブラリ	説明
001 x01	ZSMFADTR	オーデイトレコード
002 x02	ZSMFPLOT	プロットレコード

サブタイプ	マクロ ライブラリ	説明
003 x03	ZSMF003	しきい値例外レコード
004 x04	ZSMF004	状態例外レコード
024 x18	CSMF024	CICS 例外レコード
025 x19	CSMF025	CICS トランザクション サマリ レコード
027 x1B	CSMF027	CICS トランザクション 詳細レコード
028 x1C	CSMF028	CICS システム インターバル データレコード
034 x22	IMSIMTR	IMS トランザクション データレコード 前のサブタイプ 032 を置換します。
035 x23	IMSIMRA	IMS 領域サマリレコード 前のサブタイプ 033 を置換します。
048 x30	ZSMFMQRR	MQ アプリケーション リクエストレコード

追加されたパラメータ ライブラリ メンバ

パラメータ ライブラリが拡張され、以下の新規メンバの追加が行われました。

新規メンバ:

- CMDATTR - コマンド属性

このメンバのデータは、コマンドの属性を設定するために使用されます。

パラメータ ライブラリ データ セット メンバ GROUPS

パラメータ ライブラリ データ セット メンバ GROUPS が拡張され、新規論理グループ タイプが追加されました。

DB2SSID

DB2 サブシステム ID。

IMSBUFFP

IMS バッファ プール名。

JOBCLASS

JES ジョブクラス。

パラメータライブラリ データ セット メンバ LINECMD5

パラメータライブラリ データ セット メンバ LINECMD5 の機能が拡張されました。

外部ライン コマンド定義用の新規キーワード:

- NOXSCONN

XSSYSTEM 名が現在のシステム名とは異なる、クロス システム データ行でのみ使用されます。ライン コマンド定義が生成するコマンドは、通常クロス システムで実行されます。NOXSCONN オプションを指定すると、コマンドはローカルで実行されます。

パラメータライブラリ データ セット メンバ OPTIONS GSVXGSVX

パラメータライブラリ データ セット メンバ OPTIONS GSVXGSVX の機能が拡張されました。

新規キーワード:

- IgnoreSpoolErrors - JOBS タスクが実行を継続できるように、スプール読み取りエラーを無視するかどうかを指定します。スプール読み取りエラーが発生すると、JOBS タスクは終了します。

デフォルト: Yes

注: r13.5 より前のバージョンでは、デフォルトは No でした。

削除されたキーワード:

- SITEID オプションは OPTIONS から削除されました。

サイト ID 情報は、System Configuration Option メンバ GSVXGSVX で指定されるようになりました。新しいキーワードは CA-Customer-SiteID です。

- SITENAME オプションは OPTIONS から削除されました。

サイト名情報は、System Configuration Option メンバ GSVXGSVX で指定されるようになりました。新しいキーワードは Company-Name です。

パラメータライブラリ データ セット メンバ SYSVIEW

SYSLOG 情報収集タスク (LOG) は削除されました。そのため、以下のステートメントを指定して LOG タスクを開始することはできなくなりました。

START LOG,INTERVAL=*nn*

パラメータライブラリ メンバ XSYSTEM

パラメータライブラリ データ セット メンバ XSYSTEM のデフォルト値が変更されました。

注: 値はすべて秒単位で指定されます。

XssiReceiveInputTimeout

古いデフォルト値: 900

新しいデフォルト値: 1800

古い最小値: 1

新しい最小値: 300

最大デフォルト値: 変更なし

XsxiReceiveInputTimeout

古いデフォルト値: 900

新しいデフォルト値: 1800

古い最小値: 1

新しい最小値: 300

最大デフォルト値: 変更なし

オプション

CA SYSVIEW オプションの拡張機能について、このセクションで説明します。

ベース製品の拡張機能

CA SYSVIEW のベース製品が拡張されました。

時間またはインターバルの値の形式

r13.5 より前のリリースでは、時間またはインターバル値の形式は以下のとおりでした。

ddxhhym

dd

日数を示します。

x

日付区切り記号文字を指定します。

hh

時間を示します。

y

時間区切り記号文字を指定します。

mm

分数を示します。

ユーザ プロファイルで指定された *x* 位置の日付区切り記号は削除され、常にスラッシュ (/) を使用するようになりました。以下に例を示します。

旧: 5.02:30 - 5 日、2 時間、30 分

新: 5/02:30 - 5 日、2 時間、30 分

ベース製品に追加されたコマンド

以下のコマンドがベース製品に追加されました。

METRIC

メトリック属性を設定します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

ASADMIN

アドレス空間管理

新規データ フィールド:

- **zMode** - タスクまたはセッションの **zIIP** モードを指定します。有効な値は以下のとおりです。
 - **ブランク** - タスクまたはセッションが **zIIP** 処理に対して初期化されないことを示します。
 - **TASK** - タスクまたはセッションが **zIIP** 処理に対して初期化されることを示します。ただし、タスクは現在 **TASK** モードで実行されていて、**zIIP** プロセッサの対象にはなりません。
 - **SRB** - タスクまたはセッションが **zIIP** 処理に対して初期化されることを示します。ただし、タスクは現在 **SRB** モードで実行されていて、**zIIP** プロセッサの対象になります。

DLLIST

DATALIB リスト

新規データ フィールド:

- **Status** - メンバのステータスを指定します。有効な値は以下のとおりです。
 - **INDEX** - インデックス番号を示し、削除できません。
 - **OLD_KEEP** - `dataid.system.ssid.build` は最も古く、最も最近見つかったビルドです。このメンバは削除しません。
 - **OLD_DEL** - `dataid.system.ssid.build` は最も古く、最も最近見つかったビルドです。このメンバは削除できます。
 - **CURRENT** - `dataid.system.ssid.build` は現在のビルドです。このメンバは削除しません。
 - **NEW** - `dataid.system.ssid.build` は新規ビルド向けです。削除しません。
 - **DELETED** - **DATALIB** メンバは **DELETE** または **DLDELETE** ライン コマンドを使用して削除されました。また、表示はまだリフレッシュされていません。他にアクションは必要ありません。

GROUPS

論理グループ

新規論理グループタイプ:

- DB2SSID - DB2 サブシステム ID が含まれています。
- IMSBUFP - IMS バッファプール名が含まれています。
- JOBCCLASS - JES ジョブクラスが含まれています。

IDMSLIST

CA IDMS アドレス空間リスト

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

LIBVIEW

ライブラリビューア

新規ライブラリメンバタイプ:

- SYSPARM - システム parmlib 連結にあるメンバを表示します。以下に例を示します。

LIBVIEW SYSPARM GSVXGSVX

新規構文パラメータ:

LIBVIEW type <member|dsname(member)>

type の値は SYSPARM および TEMPLATE です。

LISTDIR

リスト PDS ディレクトリ

新規構文パラメータ:

```
LISTDIR dsname,<volser>,<member>,<dirtytype>  
          dsname<(member)>,<volser>,,<dirtytype>
```

新規 *dirtytype* 画面:

- MODID - モジュール ID 画面はディレクトリをフォーマットするために使用されます。この画面には以下のフィールドが表示されます。
 - LOAD のディレクトリ エントリ形式がある任意のメンバ用の LOAD タイプ フィールド。
 - 1 つ以上の標準 CA モジュール識別子ブロックが含まれているのが検出された任意のモジュールの MODID フィールド。

ご使用の CA 製品が、すべてのサポート対象リリースに対して標準モジュール識別子ブロックを実装していることを確認してください。

MODID フィールドが表示されるのは、孤立エイリアス エントリ (関連するメイン メンバが見つからなかった) に対してのみです。

新規データフィールド:

- DLL - プログラム オブジェクトで DLL が有効な場合に、DLL を示します。それ以外の場合、フィールドは空白です。

名前が変更されたデータフィールド:

- モジュール内のエントリ ポイントのオフセットを示すために、EpAddr から EpOffs へ名前を変更しました。

MIMLIST

MIM リスト

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

PRINT

表示行印刷

新規オプション キーワード:

- HScroll|NOHScroll - 現在の表示データに対して有効な任意の水平スクロールが印刷出力で繰り返されるかどうかを制御します。これらの新規キーワードは、SCREEN オプションでは有効ではありません。

デフォルト: HScroll

RECALL

最後のコマンドをリコールします。

コマンド変更:

RECALL コマンドはコマンド終了入力スタックでメッセージを発行するように変更され、後続の RECALL はスタックの先頭からやり直します。

旧リリースでは、後続の RECALL コマンドは、同じメッセージを継続して発行しました。

SENDMAIL

単純なテキスト メールを送信します。

コマンドの拡張:

- SENDMAIL コマンドによって、事前定義済みテンプレートを電子メールメッセージの内容または本文にロードできるようになりました。
- 新しい Event Capture メンバが提供され、トリガされた例外に基づいたアラート電子メール送信方法のサンプルが提供されます。

サンプル イベントキャプチャメンバ: CICSMAIL、IMSMAIL、MQSMAIL、MVSMAIL、TCPMAIL

新規構文パラメータ:

- TEMPLATE - メールの本文を指定されたテンプレートメンバの内容へ初期化するように指定します。

新規 SEND サブコマンド オプション:

- TAGS、NOTAGS - HTML が指定されている場合、SEND はデフォルトでテキストを HTML タグで囲みます。テキストにすでに HTML タグがある場合に NOTAGS オプションを指定すると、SEND はテキストを HTML タグで囲みません。

TEMPLATE SENDMAIL パラメータを指定してこのオプションを使用して、HTML ベースのテキストでメールの本文をロードします。

TEXT も指定される場合、このオプションは無視されます。

STATUS

製品の状態

新規データ フィールド:

- Product:
 - zIIP Mode
 - Customer Name

- System Configuration Member
- Environment:
 - Sysplex CF level
 - Sysplex Max systems
 - Sysplex Max current
 - Sysplex IPL token
 - Sysplex ID
 - Sysplex System ID
- CPU Normalization
 - CP Factor
 - SP Factor
- CPU Speed
 - CP percent of SP
 - SP percent of CP

削除されたデータ フィールド:

- セキュリティ EXIT を製品から削除しました。
- Gen 名テーブルおよび Gen モジュールをユーザ モジュールから削除しました。
- CICS、QUICKREF および WebSphere MQ のソフトウェア バージョンを削除しました。ソフトウェア バージョン情報は、SOFTWARE コマンドで利用可能です。

TOPICS

ヘルプトピック ナレッジ ベース

新規データ フィールド:

- Rels - オンライン ヘルプトピックが使用される時に、リリースを示します。

USERS

製品ユーザ

新規データ フィールド:

- CpuTime - 累積 CPU 時間の合計。
- Pct% - タスクによって使用されたアドレス空間 CPU 時間の合計の割合 (%)。

- CPTIME - 累積タスク CPU 時間。
- ENCLTIME - 累積エンクレーブ CPU 時間。
- EPCT% - エンクレーブ上で実行されるタスクによって使用された合計 CPU 時間の割合 (%)。
- ZIIPTIME - zIIP プロセッサ上で実行される累積エンクレーブ CPU 時間。
- ZIIPONCP - zIIP プロセッサ上での実行に適していたが汎用プロセッサ上で実行された累積エンクレーブ CPU 時間。
- ZPCT% - zIIP プロセッサ上で実行されたタスクによって使用された合計 CPU 時間の割合 (%)。
- ZSWITCH - zIIP モード スイッチの数。
- ZMODE - タスク セッションの zIIP モード。値:
 - ブランク - タスクまたはセッションが zIIP 処理に対して初期化されないことを示します。
 - TASK - タスクまたはセッションが zIIP 処理に対して初期化されることを示します。ただし、タスクは現在 TASK モードで実行されていて、zIIP プロセッサの対象にはなりません。
 - SRB - タスクまたはセッションが zIIP 処理に対して初期化されることを示します。ただし、タスクは現在 SRB モードで実行されていて、zIIP プロセッサの対象になります。
- XAID - 進行中のクロス メモリ データ リクエストがある場合、そのターゲット ASID。ただし、リクエストがない場合はブランク。
- XJOBNAME - クロス メモリ データ リクエストのターゲット ジョブ名。ただし、リクエストがない場合はブランク。
- XREQ - 進行中のクロス メモリ データ リクエストがある場合、クロス メモリ リクエスト コード。ただし、リクエストがない場合はブランク。
- XELPTIME - 任意のクロス メモリ データ リクエストの経過時間。ただし、リクエストがない場合はブランク。

プロファイル照会キーワード

プロファイル照会コマンドが機能拡張され、以下の新規キーワードが含まれるようになりました。

CICSGROUP

デフォルトの CICS 論理グループ名を指定します。論理グループには、表示する CICS 領域のリストが含まれます。

"GROUP *name*" パラメータを使用してコマンドを入力する際に、ユーザがグループ名を指定しない場合は、デフォルトの CICS 論理グループ名が使用されます。

DB2TGDEF

関連する DB2 プライマリ コマンドが入力される際に、自動的に切り替える DB2 ジョブを指定します。

FMID

製品 FMID を指定します。

TABFORMATLINE

フォーマット表示行が表示される際に、フォーマット表示行フォーマットへのタブ移動を許可します。

TABINFOPTS

タブ機能をサポートする画面上で、情報行オプションへのタブ移動を許可します。

TABXSSTATLINE

XSSTATUS 行が表示される際に、行フォーマットへのタブ移動を許可します。

ZIIPMODE

zIIP モードを指定します。

z/OS コンポーネントの拡張

CA SYSVIEW for z/OS コンポーネントが拡張されました。

データ収集

CA SYSVIEW イベント スケジューラは、データ収集イベントおよび属性を制御します。

アドレス空間収集

イベント スケジューラが制御する各データ収集機能には、最小および最大許容インターバルがあります。

関数 MVSDATA-JOBS の以下の値が変更されました:

最小: 00:00:30 (変更なし)

新規最大: 00:13:00

旧最大: 00:02:00

CA OPS/MVS イベント通知

定義されたしきい値または状態ルールに基づいて、CA SYSVIEW 内の例外アラートがトリガされる際には、複数のアクションを実行することができます。アクションの 1 つは、CA OPS/MVS にイベント通知を送信することです。このアクションは JAPI ルールを使用してコーディングされます。

以下の REXX 変数が追加されました。

API.APPLICATION

アプリケーション名が含まれる値を提供します。たとえば、SYSVIEW です。

API.VERSION

バージョンが含まれる値を提供します。たとえば 13.5 です。

API.LEVEL

アプリケーションレベルが含まれる値を提供します。たとえば 00000713 です。

API.ID

アプリケーション ID が含まれる値を提供します。たとえば、CAGSVX0001 です。

API.COLOR

アラート色を提供します。

0 - デフォルト

1 - 緑

2 - 青

3 - 赤

4 - 白

5 - ピンク

6 - 黄

7 - 青緑

API.GROUP

変数メトリック グループ名を提供します。

API.NAME

変数メトリック名を提供します。

API.DESCRPTION

変数メトリックの説明を含む値を提供します。

API.RESOURCE

関連するリソースを提供します。

API.STATUS

現在のアプリケーションのステータスを提供します。

API.VALUE

現在の値を提供します。

API.ELAPSED

前回の通知以降の経過時間を提供する REXX 変数。

API.ASID

ASID を提供する REXX 変数。

API.JOBID

JES ジョブ ID を提供する REXX 変数。

API.TEXT

例外メッセージ テキストを提供します。

z/OS コンポーネントに追加されたコマンド

以下のコマンドがベース製品に追加されました。

ASPERF

アクティブなアドレス空間のパフォーマンスを表示します。

z/OS コンポーネントで拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

ACTIVITY

システム アクティビティを表示します。

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

ACTSUM

ジョブ アクティビティのサマリを表示します。

新規構文パラメータ:

- XSYStem、XSData - これにより、クロス システム データ収集がこの実行に対して強制的に有効になります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。
- NOXSYStem、NOXSData - これにより、クロス システム データ収集がこの実行に対して強制的に無効になります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。

新規データフィールド:

- AuxStg - JOBASTG
補助ストレージを示します。
- CP% - JOBCP%
CPU の使用率(%)を示します。
- CPT% - JOBCPT%
CPU の合計使用率(%)を示します。
- CPTime - JOBCPTM
CP 時間を示します。
- GAuxStg - JOBGASTG
64 ビットプライベートストレージをバックアップする補助ストレージを示します。
- G-CSA - JOBGCSA
割り当てられた G-CSA ストレージを示します。
- GPvtAllo - JOBGPVTA

割り当てられた G-Private ストレージを示します。

- **GRealStg - JOBGRSTG**

64 ビットプライベート ストレージをバックアップする実ストレージを示します。

ALERTS

z/OS 例外アラートを表示します。

新規構文パラメータ:

- ACK - 受信確認されたアラートおよび受信確認されなかったアラートの両方を表示します。
- NOACK - 受信確認されたアラートを表示しません。
- XSYSstem、XSData - これにより、クロス システム データ収集がこの実行に対して強制的に有効になります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。
- NOXSYSstem、NOXSData - これにより、クロス システム データ収集がこの実行に対して強制的に無効になります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。

新規ライン コマンド:

- ACK - METRIC コマンドを呼び出して、アラートを受信確認します。
- CLR - METRIC コマンドを呼び出して、受信確認したアラートをクリアします。

新規データ フィールド:

- ACK - アラートが受信確認されたことを示します。
- Pri - 例外の相対的な優先度。
- AckElaps - アラートの受信確認後の経過時間を示します。
- AckDate - アラートが受信確認された日付。
- AckTime - アラートが受信確認された時刻。
- RsceAttr - リソース属性修飾子。

名前が変更されたデータ フィールド:

- Resource - 引数名が変更されました。

APFLIST

APF リスト データ セットを表示します。

新規ライン コマンド:

- LMID - 選択されたデータ セットに対して、MODID キーワードで LISTDIR コマンドを呼び出します。呼び出されたら、LISTDIR はデータ セット内のすべてのメンバに対して標準 CA モジュール 識別情報を表示します。

APFSTAT

APF リスト データ セット ステータスを表示します。

新規ライン コマンド:

- LMID - 選択されたデータ セットに対して、MODID キーワードで LISTDIR コマンドを呼び出します。呼び出されたら、LISTDIR はデータ セット内のすべてのメンバに対して標準 CA モジュール識別情報を表示します。

ASLIST

アドレス空間リスト

名前が変更されたデータ フィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

CPU

CPU 情報を表示します。

新規構文パラメータ:

- PVtmod、NOPVtmod - PVT または E-PVT 領域にある EXOPSW34 アドレスに対して、モジュール内でモジュール名およびオフセットを決定するかどうかを制御します。プロセッサに対して LOCAL または CMS ロックが保持されている場合、このオプションは NOPVTMOD を指定した場合と同様に処理されます。

デフォルト: NOPVTMOD

新規データ フィールド:

- PSAV - 仮想 PSA アドレス。
- PSAR - 実 PSA アドレス。

DDLST

DD 名ライブラリを表示および検索します。

新規ライン コマンド:

- LMID - 選択されたデータ セットに対して、MODID キーワードで LISTDIR コマンドを呼び出します。呼び出されたら、LISTDIR はデータ セット内のすべてのメンバに対して標準 CA モジュール識別情報を表示します。

DSALLOC

割り当てられたデータセットを表示します。

新規データ フィールド:

- SSNm - サブシステム名を表示します。
- SSCA - サブシステム通信領域アドレス。

新規ライン コマンド:

- LMID - 選択されたデータセットに対して、MODID キーワードで LISTDIR コマンドを呼び出します。呼び出されたら、LISTDIR はデータセット内のすべてのメンバに対して標準 CA モジュール識別情報を表示します。

DSCAT

カタログ化されたデータセット。

新規ライン コマンド:

- LMID - 選択されたデータセットに対して、MODID キーワードで LISTDIR コマンドを呼び出します。呼び出されたら、LISTDIR はデータセット内のすべてのメンバに対して標準 CA モジュール識別情報を表示します。

EXTENTS

ボリューム エクステントを表示します。

新規ライン コマンド:

- LMID - 選択されたデータセットに対して、MODID キーワードで LISTDIR コマンドを呼び出します。呼び出されたら、LISTDIR はデータセット内のすべてのメンバに対して標準 CA モジュール識別情報を表示します。

Status

IPL 情報を表示します。

以下のセクションに対する新規データフィールド: IEASYS

- **AUTOR** - インストールを有効にして、IPL 実行中に独自の自動応答ポリシーを指定するか、自動応答処理がアクティブ化されないようにリクエストします。

デフォルト: z/OS 1.12 以降でのみ有効です。

- **CATALOG** - 現在の IPL 中に使用する IGGCATxx メンバを識別します。2 つの英数文字 (aa、bb など) が IGGCAT に追加されて、メンバ名を形成します。IGGCATxx parmlib メンバは、初期化するシステムのカタログ パラメータを指定します。

デフォルト: z/OS 1.13 以降でのみ有効です。

- **IXGCNF** - シスプレックス内の初期化システム上でシステム ロガーが起動するか再起動される際に使用する IXGCNFxx parmlib メンバを識別します。構文 IXGCNF=aa は単一メンバを指定します。構文 IXGCNF=(aa、bb など) は、複数のメンバに渡るシステム ロガー初期化ステートメントのグループを識別します。複数のメンバを連結する際に、個別のシステム ロガー オプションは優先される最後の parmlib メンバ オプションとマージされます。

デフォルト: z/OS 1.13 以降でのみ有効です。

IRLMLIST

IRLM リストを表示します。

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

LINKLIBS

動的な linklist ライブラリを表示します。

新規ライン コマンド:

- LMID - 選択されたデータセットに対して、MODID キーワードで LISTDIR コマンドを呼び出します。呼び出されたら、LISTDIR はデータセット内のすべてのメンバに対して標準 CA モジュール識別情報を表示します。

LINKLIST

linklist データセットを表示します。

新規ライン コマンド:

- LMID - 選択されたデータセットに対して、MODID キーワードで LISTDIR コマンドを呼び出します。呼び出されたら、LISTDIR はデータセット内のすべてのメンバに対して標準 CA モジュール識別情報を表示します。

LISTDIR

リスト PDF ディレクトリを表示します。

新規データ フィールド:

- IdSecLoc - モジュール識別子が含まれる CSECT 内のモジュール識別子ブロックの場所。
- IdModLoc - モジュール内でモジュール識別子が含まれる CSECT の場所。

LPALIBS

LPALIST データセットを表示します。

新規ライン コマンド:

- LMID - 選択されたデータセットに対して、MODID キーワードで LISTDIR コマンドを呼び出します。呼び出されたら、LISTDIR はデータセット内のすべてのメンバに対して標準 CA モジュール識別情報を表示します。

MOBJECTS

メモリ オブジェクトのサマリ

名前が変更されたデータ フィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

MODULES

モジュールを表示します

新規構文パラメータ:

- **Modid|NOModid - MODID** は、標準 **CA** モジュール識別子があるかどうかすべてのモジュールが検索されることをリクエストします。**MODID** オプションによって、追加フィールドが画面に表示されます。これらのフィールドには、モジュール内の任意のまたはすべてのモジュール識別子のモジュール識別情報が含まれます。

新規データフィールド:

- **IdSecLoc** - モジュール識別子が含まれる **CSECT** 内のモジュール識別子ブロックの場所。
- **IdModLoc** - モジュール内でモジュール識別子が含まれる **CSECT** の場所。

STATES

状態定義

新規構文パラメータ:

- **SAVE** - 定義を永続データストアに保存します。

新規データフィールド:

- **Pri** - 例外の優先度。優先度は、**PROBLEM** など類似のステータスレベルの例外をソートするために使用できます。
- **TimeBeg** - 定義が適用可能である開始時間。以下の形式で時間を指定します: **HH:MM:SS**。この時間値は、以下の値のいずれかを使用して定義することもできます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- **TimeEnd** - 定義が適用可能である終了時間。以下の形式で時間を指定します: **HH:MM:SS**。この時間値は、以下の値のいずれかを使用して定義することもできます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- **TimeRng** - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。
- **Sun**、**Mon**、**Tue**、**Wed**、**Thu**、**Fri**、**Sat** - 例外が実行可能である曜日を指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「YES」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「NO」を入力します。
- **SMTWTFS** - 適した曜日。
 - **S** - 日曜日
 - **M** - 月曜日
 - **T** - 火曜日
 - **W** - 水曜日
 - **T** - 木曜日
 - **F** - 金曜日
 - **S** - 土曜日

- Active - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値：
 - ACTIVE - 定義は、現在処理可能です。
 - INACTIVE - 定義は、現在処理可能ではありません。
- Disabled - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータフィールド:

- IMOD - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド:

- DELETE - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ライン コマンドを使用して、定義を削除します。

SYSTEMS

[Systems Overview]メニューを表示します。

SYSTEMS コマンドは、CAICCI ネットワークで到達可能なすべてのシステム上で実行されているすべての **SYSDVIEW** のデータを表示するようになりました。

オプションは、データを **HOME** システムのみ、または **CURRENT** システムへ制限するために使用できます。

新規データフィールド:

- Type - データを提供するサーバのタイプ。
- Ssid - データを提供するサーバのサブシステム ID。
- Jobname - データを提供するサーバのジョブ名。
- Jobid - データを提供するサーバのジョブ ID。
- Sysid - コミュニケーション サーバの CAICCI システム ID。
- Loc - サーバがある場所。LCL または RMT。
- Rels - データを提供するサーバのリリース。
- Bld - データを提供するサーバのビルド。

TASK

タスク構造を表示します。

新規データフィールド:

- TToken - TCB トークン。

TASKLIB

TASKLIB/STEPLIB/JOBLIB ライブラリ

新規ライン コマンド:

- **LMID** - 選択されたデータセットに対して、**MODID** キーワードで **LISTDIR** コマンドを呼び出します。呼び出されたら、**LISTDIR** はデータセット内のすべてのメンバに対して標準 **CA** モジュール識別情報を表示します。

THRESH

しきい値定義

新規構文パラメータ:

- **SAVE** - 定義を永続データストアに保存します。

新規データフィールド:

- **Pri** - 例外の優先度。優先度は、**PROBLEM** など類似のステータスレベルの例外をソートするために使用できます。
- **TimeBeg** - 定義が適用可能である開始時間。以下の形式で時間を指定します: **HH:MM:SS**。この時間値は、以下の値のいずれかを使用して定義することもできます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- **TimeEnd** - 定義が適用可能である終了時間。以下の形式で時間を指定します: **HH:MM:SS**。この時間値は、以下の値のいずれかを使用して定義することもできます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- **TimeRng** - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。
- **Sun**、**Mon**、**Tue**、**Wed**、**Thu**、**Fri**、**Sat** - 例外が実行可能である曜日を指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「**YES**」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「**NO**」を入力します。
- **SMTWTFS** - 適した曜日。
 - **S** - 日曜日
 - **M** - 月曜日
 - **T** - 火曜日
 - **W** - 水曜日
 - **T** - 木曜日
 - **F** - 金曜日
 - **S** - 土曜日

- Active - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値:
 - ACTIVE - 定義は、現在処理可能です。
 - INACTIVE - 定義は、現在処理可能ではありません。
- Disabled - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータフィールド:

- IMOD - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド:

- DELETE - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ライン コマンドを使用して、定義を削除します。

USSLIST

USS リスト アドレス空間

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

VARs

z/OS モニタ変数。

新規データ フィールド:

- RsceAttr - リソース属性タイプ。設定可能な値:
 - ブランク - なし
 - jobtype - 以下のジョブ タイプ:
 - JOB - バッチ ジョブ
 - SYS - システム タスク
 - STC - スターティッド タスク
 - TSU - TSO ユーザ
 - INIT - イニシエータ
 - ATX - APPC トランザクション
 - OTX - OpenMVS トランザクション

名前が変更されたデータフィールド:

- Resource - 引数名が変更されました

VTOC

コンテンツのボリューム テーブル

新規ライン コマンド:

- **LMID** - 選択されたデータセットに対して、**MODID** キーワードで **LISTDIR** コマンドを呼び出します。呼び出されたら、**LISTDIR** はデータセット内のすべてのメンバに対して標準 **CA** モジュール識別情報を表示します。

WMADELAY

WLM アドレス空間遅延

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が **JC** から **Jobclass** に変更および拡張されました。

WMAGRAPH

WLM アドレス空間遅延グラフ

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が **JC** から **Jobclass** に変更および拡張されました。

WMASINFO

WLM アドレス空間情報

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が **JC** から **Jobclass** に変更および拡張されました。

WMSYSCAP

WLM システム キャパシティ情報。

新規データ フィールド:

- Type - プロセッサ タイプ。設定可能な値:
 - *- システム エントリ。プロセッサ専用ではありません。
 - CP - CP プロセッサ全般。
 - IFA - IFA プロセッサ (zAAP)
 - IIP - IIP プロセッサ (zIIP)
- Factor - 秒あたりの CPU サービス単位キャパシティの合計。このプロセッサ タイプの正規化ファクタ。

同等の CP:

プロセッサ時間 * ファクタ

256

ZAP

DASD レコードを表示および変更します。

削除された構文パラメータ:

- ZAP SPOOL - JES2 スプール ボリューム データ セット。

変更されたサブコマンド:

- NEXT - 必須文字の最小数は NEXt から NEXT に増加されます。
- PREVIOUS - 必須文字の最小数は PREvious から PREvious に増加されます。

追加されたデータ収集しきい値メトリック

以下のしきい値メトリックが追加され、データ収集が拡張されました。

JOBALLTM

すべてのプロセッサ CPU インターバル時間。

リソース: ジョブ名

JOBALLTT

すべてのプロセッサ CPU 合計時間。

リソース: ジョブ名

JOBASTG

補助記憶装置。

リソース: ジョブ名

JOBCP%

CP CPU 使用率(%)。

リソース: ジョブ名

JOBCPT%

CP CPU 使用率の合計(%)。

リソース: ジョブ名

JOBCPTM

CP CPU インターバル時間。

リソース: ジョブ名

JOBCPTM

CP CPU 合計時間。

リソース: ジョブ名

JOBGASTG

64 ビットプライベートストレージをバックアップする補助ストレージ。

リソース: ジョブ名

JOBGCSA

G-CSA 割り当てストレージ。

リソース: ジョブ名

JOBGPVTA

G-Private 割り当てストレージ。

リソース: ジョブ名

JOBGRSTG

64 ビットプライベートストレージをバックアップする実ストレージ。

リソース: ジョブ名

JOBHIPNE

IIP CPU インターバル非エンクレーブ時間。

リソース: ジョブ名

JOBHIPNT

IIP CPU 合計非エンクレーブ時間。

リソース: ジョブ名

リリース r13.5 からは、すべてのプロセッサ タイプの時間を組み合わせる CPU 時間値がメトリックに含まれるようになりました。新規メトリックは、CP プロセッサのみに対してのみ作成されています。

JOBCPU%

CPU 使用率(%)。

リソース: ジョブ名

JOBPUT%

CPU 使用率の合計(%)。

リソース: ジョブ名

JOBPUTM

CPU インターバル時間。

リソース: ジョブ名

JOBPUTT

CPU 合計時間。

リソース: ジョブ名

リリース r13.5 から、IIP プロセッサ上でエンクレーブ時間および非エンクレーブ時間が含まれる CPU 時間がメトリックに含まれるようになりました。新規メトリックは、非エンクレーブ時間に対してのみ作成されています。

JOBIIIP%

IIP 使用率(%)。

リソース: ジョブ名

JOBIIPT%

IIP 使用率の合計(%)。

リソース: ジョブ名

JOBIIPTM

IIP CPU インターバル時間。

リソース: ジョブ名

JOBIIPTT

IIP CPU 合計時間。

リソース: ジョブ名

JES2 および JES3

JES2 および JES3 が機能強化されました。

ジョブ クラス

JES2 および JES3 が機能強化され、8 文字のジョブクラスのサポートが追加されました。

追加された JES コマンド

以下の JES コマンドが追加されました。

JCGROUP

JES3 クラス グループを表示します。

JTRANQUE

JES トランザクション出力キューを表示します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

JINIT

イニシエータ

名前が変更されたコマンド:

- INIT - 名前が JINIT に変更されました。同意語 INIT が定義されました。

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

INTRDR

内部リーダー

削除されたデータフィールド:

- Jobc
- Notify
- Programmer
- Xeqdest

JCOPYOUT

JES 出力をコピーします。

名前が変更されたコマンド:

- JCOPYOUT - コマンド名が COPYOUTP から JCOPYOUT へ変更されました。同意語 COPYOUTP が定義されました。

追加サポート:

- JES3 のサポートが追加されました。

JINPRTY

JES2 入力ジョブ優先度サマリ。

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

JOBCLASS

ジョブ クラス。

追加サポート:

- JES3 がサポートされるようになりました。

新規データ フィールド:

- CndPrg - JES データ セットを条件付きでパージするかどうかを指定します。
- DupJobs - 重複するジョブ名を持つジョブを遅延させるかどうかを指定します。
- Group - クラスのグループ名を指定します。
- JESLog - JES ジョブ ログ データ セットのスピニング適性を指定します。JES ジョブ ログ データ セットは JESMSG LG と JESYSMSG です。
- Partition - このクラスの実出力が配置される、スプール パーティション名を指定します。
- Prty - クラスの優先度を指定します。
- SchEnv - ジョブクラスのデフォルトのスケジューリング環境を指定します。
- SDepth - セットアップ深度を指定します。
- Status - ジョブクラス ステータスを指定します。クラスが保持される場合、ステータスは HELD です。それ以外の場合、デフォルトは ACTIVE です。
- TrkGrps - このクラスで出力用にプライマリおよびセカンダリのトラック グループ割り当てを指定します。

新規ライン コマンド:

- HOLD - 出力データ セットを保持します。JES3 のサポートが追加されました。
- RELEASE - 保持されている出力データ セットを解放します。JES3 のサポートが追加されました。

JOUTDES

出力記述子を表示します。

追加サポート:

- JES3 がサポートされるようになりました。

名前が変更されたコマンド:

- OUTDES コマンドは JOUTDES に名前が変更されました。同意語 OUTDES が定義されました。

JTRANQUE

JESトランザクション出力キューを表示します。

名前が変更されたコマンド:

- APPCOUTQ コマンドは JTRANQUE に名前が変更されました。同意語 APPCOUTQ が定義されました。

LISTFILE

JES ジョブ データ セットのリストを表示します。

ジョブの実行に関しては、出力データ セットが閉じるまで、一部のフィールドで情報は利用可能になりません。

新規情報フィールド:

- ExecSys - 実行システム名を表示します。

新規データ フィールド:

- ExecSys - 実行システム名。
- Spin - データ セットがスピン データ セットとしてマークされるかどうかを示します。ジョブがまだ実行されていれば、クローズされた出力データは削除できます。データ セットが解放されると、出力データ セット スプール空間は削除されます。
- TRAN - ジョブはトランザクション ジョブ 出力です。

JES2 および JES3 用の変更可能なデータ フィールド:

- Prty - 出力データ セットの優先度。
- Forms - 出力のプリント時に使用されるフォーム番号。

JES3 のみの変更可能なデータ フィールド:

- Bur - プリント済み (YES) または標準モードでプリント (NO) の場合に、ジョブをバーストするかどうかを示します。
- Chars - 出力のプリントに使用する文字配列テーブル。
- FCB - 出力のプリント時に使用するフォーム制御バッファ イメージ。
- Flash - 出力のプリント時に使用する書式オーバーレイ名。
- Prmode - 出力のプロセス モード。
- UCS - 出力のプリント時に使用する汎用文字セット名。

新規ライン コマンド:

- HOLD - 出力データ セットを保持します。
- RELEASE - 保持されている出力データ セットを解放します。

LISTHELD

ジョブに保持された出力キュー

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が Jobc から Jobclass に変更および拡張されました。

削除されたデータ フィールド:

- User-Data

LISTJOBS

すべてのジョブ キュー。

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が Jobc から Jobclass に変更および拡張されました。

削除されたデータ フィールド:

- User-Data

LISTOUT

ジョブ出力キュー。

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が Jobc から Jobclass に変更および拡張されました。

削除されたデータ フィールド:

- User-Data

OUTPUT

JES ジョブ出力。

新規情報フィールド:

- ExecSys - 実行システム名。

READER

リーダー

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が Jobc から Jobclass に変更および拡張されました。

削除されたコマンド(JES)

以下のコマンドが削除されました。

APPCOUTQ - 新規 JTRANQUE コマンドを使用して、トランザクション出力を表示します。

Option for CICS

CA SYSVIEW Option for CICS が機能強化されました。

CA OPS/MVS イベント通知

しきい値または状態の例外がトリガされると、さまざまなアクションを実行できます。こうしたアクションの 1 つに、CA SYSVIEW に対する例外イベントの通知があります。

イベント通知によって JAPI ルール CAGSVY0001 がトリガされます。

以下の表に、利用可能な REXX 変数およびその値を示します。

REXX 変数	値
API.APPLICATION	SYSVIEW
API.VERSION	13.5a
API.LEVEL	00000713
API.ID	CAGSVY0001
API.COLOR	アラート色: 0 - デフォルト 1 - 緑 2 - 青 3 - 赤 4 - 白 5 - ピンク 6 - 黄 7 - 青緑
API.GROUP	変数メトリック グループ名

REXX 変数	値
API.NAME	変数メトリック名
API.DESCRPTION	変数メトリックの説明
API.RSCE1	関連するリソース
API.RSCE2	関連するリソース
API.STATUS	現在のステータス
API.VALUE	現在値
API.ELAPSED (新規 REXX 変数)	通知後の経過時間
API.TEXT	例外メッセージテキスト

WTO コンソール メッセージ (CICS)

CA SYSVIEW では、WTO を使用して、多種多様なメッセージをコンソールまたはジョブ ログに書き込むことができます。ほとんどのメッセージは、データが事前定義済みメッセージテンプレートに挿入されて、実行時に動的に作成されます。

ほとんどの場合、WTO を使用してメッセージを書き込む前に、余分なブランクがメッセージから削除されます。

単一行 WTO の最大メッセージ長は 126 文字です。長さの合計が 126 文字を超える場合、メッセージは複数行 WTO を使用してログに書き込まれます。

複数行 WTO には、行あたり 71 文字の制限があります。元のメッセージテキストは、メッセージテキスト内のブランク文字に基づいて、複数行に動的に分割されます。各メッセージ行で利用可能な 71 文字が極力使用されます。

メッセージの以下の行は、複数行 WTO として書き込まれています。各行のメッセージ行およびデータの数、動的に挿入されるデータに応じて変わる可能性があります。

```
GSVC100W <type> <group> <metric> <rsce1> <rsce2> <oldstat> <newstat> V= <value> W=
<warning> P= <problem> <ruletype> <elapsed> <jobname> <tran> <task#> <term> <user>
Desc='<description>
```

Option for CICS に追加されたコマンド

CA SYSVIEW Option for CICS が機能強化され、以下の新規コマンドが追加されました。

CCONN

CICS 接続に関する情報が提供されます。

CPROFILE

CICS プロファイルに関する情報が提供されます。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

CALERTS

CICS 例外アラート

新規構文パラメータ:

- ACK - 受信確認されたアラートおよび受信確認されなかったアラートの両方を表示します。
- NOACK - 受信確認されたアラートを表示しません。

新規ライン コマンド:

- ACK - METRIC コマンドを呼び出して、アラートを受信確認します。
- CLR - METRIC コマンドを呼び出して、受信確認したアラートをクリアします。

新規データ フィールド:

- ACK - アラートが受信確認されたことを示します。
- Pri - 例外の相対的な優先度を示します。
- AckElaps - アラートの受信確認後の経過時間を示します。
- AckDate - アラートが受信確認された日付を示します。
- AckTime - アラートが受信確認された時刻を示します。

CDATAMON

CICS データ モニタリング統計

新規データ フィールド:

- GPvtLim - 割り当ておよび内部管理可能な 64 ビット ストレージの最大量。
- GPvtSize - MVS から割り当てられ、内部管理されている 64 ビット ストレージの現在量。
- GPvtExt - MVS になった 64 ビット ストレージの割り当て数。
- GPvtPri - プライマリ 64 ビット ストレージ割り当てサイズ。
- GPvtSec - セカンダリ 64 ビット ストレージ割り当てサイズ。
- AllocSize - 現在割り当てられているか使用中のストレージの量。
- AllocHWM - 割り当て済みストレージのハイウォーターマーク。
- AllocCnt - 割り当て済みストレージブロックの数。
- FreeSize - 現在空いているか利用可能なストレージの量。
- FreeMax - 空きストレージの連続する最大ブロック。
- FreeCnt - 空きストレージブロックの数。

CDUMPMGT

CICS ダンプ管理

新規構文パラメータ:

- DELETE - 定義を削除します。

利用可能なパラメータ:

- Tranid - トランザクション ID を指定します。
- Program - プログラム名を指定します。
- Dumpcode - ダンプまたは異常終了コードを指定します。

新規ライン コマンド:

- DELETE - 選択された定義を削除します。

新規データ フィールド:

- AbNotify - この異常終了通知フィールドは、CICS トランザクションが異常終了した場合は常にメッセージをジョブ ログに書き込むかどうかを指定します。

異常終了が発生すると、異常終了するトランザクションをこのテーブルのエントリとマッチングする試みが行われます。一致が見つかる場合、Abend Notify メソッドはメッセージを書き込むメソッドを決定します。一致が見つからない場合、デフォルト設定オプションが使用されます。

parmlib メンバ CICSOPTS 内の ABEND-NOTIFICATION パラメータはデフォルトを指定します。

有効な値は以下のとおりです。

- NONE - メッセージは書き込まれません。
- SHORT - 単一の GSV201E メッセージを書き込みます。以下の情報が含まれます。

トランザクション ID

タスク番号

異常終了コード

プログラム

リクエスト ID

リソース

- LONG - メッセージ セットを書き込みます。以下の情報が含まれます。

トランザクション ID

タスク番号

異常終了コード

プログラム

リクエスト ID

リソース

PSW

アクセスレジスタ

汎用レジスタ

CICS

ターゲット CICS を設定します

削除された構文パラメータ:

- SSID - このパラメータは、MVS サブシステムが削除されたため、必要なくなりました。

CICSLIST

CICS アドレス空間

新規データ フィールド:

- ExecStage - CICS 領域の実行段階。

設定可能な値:

- INACTIVE - 非アクティブ
- SWAPPED - 論理スワップ
- INITIALIZE - 初期化
- INIT-1st - 第 1 ステージ初期化
- INIT-2nd - 第 2 ステージ初期化
- INIT-3rd - 第 3 ステージ初期化
- EXECUTING - 実行中
- CANCELED - キャンセルのためにシャットダウン
- CANCELED-1st - キャンセルのためにシャットダウン、静止 第 1 ステージ。
- CANCELED-2nd - キャンセルのためにシャットダウン、静止 第 2 ステージ。
- SHUTIMM - 即時シャットダウン、第 1 ステージ
- SHUTIMM-1st - 即時シャットダウン、第 2 ステージ
- SHUTIMM-2nd - 即時シャットダウン、第 3 ステージ
- SHUTDOWN - シャットダウン、第 1 ステージ
- SHUTDOWN-1st - シャットダウン、第 2 ステージ
- SHUTDOWN-2nd - シャットダウン、第 3 ステージ

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブ クラスをサポートするために、名前が Jc から Jobclass に変更および拡張されました。

新規ライン コマンド:

- CANCEL - ASCANCEL コマンドを呼び出して、選択されたアドレス空間をキャンセルします。

CLIBS

CICS プログラム統計

新規ライン コマンド:

- **LMID** - 選択されたデータセットに対して、**MODID** キーワードで **LISTDIR** コマンドを呼び出します。データセット内のすべてのメンバの標準 **CA** モジュール識別情報が表示されます。

CPROGRAM

CICS プログラム統計

新規データ フィールド:

- **API** - プログラムが使用する **API** を指定します。
- **Dataset** - モジュールがロードされているデータセット名。**DFHRPL** または **CICS** ダイナミックライブラリから現在ロードされるモジュールのデータセット名を表示します。
- **ExecSet** - プログラムがリモート **CICS** 領域で実行されている場合と同様に、**CICS** がプログラムをリンクし、実行するかどうかどうかを指定します。

CSTATES

CICS 状態定義

新規データフィールド:

- Pri - 例外の優先度。優先度を使用して、**PROBLEM** など同じステータスレベルにある例外をソートします。

- TimeBeg - 定義が適用可能である開始時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeEnd - 定義が適用可能である終了時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeRng - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。
- Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat - 例外が指定された曜日に実行可能であることを指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「YES」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「NO」を入力します。
- SMTWTFS - 適した曜日。
- Active - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値:
 - ACTIVE - 定義は、現在処理可能です。
 - INACTIVE - 定義は、現在処理可能ではありません。
- Disabled - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータフィールド:

- IMOD - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド:

- DELETE - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ラインコマンドを使用して、定義を削除します。

CTERMS

CICS 端末統計

新規データフィールド:

- TT - ターミナル タイプ コードを表示します。
- TermType - ターミナル タイプ を表示します。

CTHRESH

CICS しきい値定義

新規データ フィールド:

- Pri - 例外の優先度。優先度を使用して、**PROBLEM** など同じステータスレベルにある例外をソートします。
- TimeBeg - 定義が適用可能である開始時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeEnd - 定義が適用可能である終了時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeRng - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。
- Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat - 例外が指定された曜日に実行可能であることを指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「YES」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「NO」を入力します。
- SMTWTFS - 適した曜日。
- Active - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値:
 - ACTIVE - 定義は、現在処理可能です。
 - INACTIVE - 定義は、現在処理可能ではありません。
- Disabled - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータ フィールド:

- IMOD - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド:

- DELETE - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ライン コマンドを使用して、定義を削除します。

CTrans

CICS トランザクション サマリ

新規データ フィールド:

- Profile - 使用するターミナル プロファイルの名前。

新規ライン コマンド:

- PROFILE - トランザクション プロファイル名を選択する CPROFILE コマンドを呼び出します。

CTRANOPT

CICS トランザクション オプション

新規構文パラメータ:

- **TRANLOG** - メイン サービス アドレス空間で実行されている **CICS** ロガー タスクにトランザクションレコードを送信し、レコードが定義済みのログ ストリームに書き込まれるようにします。
- **NOTRANLOG** - 以下の **CICSOPTS** 設定オプションのいずれかがトランザクションをオーバーライドする場合を除き、このトランザクションのデータはログに記録されません。
 - **TRANSACTION-LOG-IF-ABEND**
 - **TRANSACTION-LOG-IF-CICSEXC**
 - **TRANSACTION-LOG-IF-THRESHOLD**
- **SMF** - メイン サービス アドレス空間で実行されている **CICS** ロガー タスクにトランザクションレコードを送信し、レコードが **SMF** に書き込まれるようにします。
- **NOSMF** - 以下の **CICSOPTS** 設定オプションのいずれかがトランザクションをオーバーライドする場合を除き、このトランザクションのデータはログに記録されません。
 - **TRANSACTION-LOG-IF-ABEND**
 - **TRANSACTION-LOG-IF-CICSEXC**
 - **TRANSACTION-LOG-IF-THRESHOLD**
- **DYNEXIT** - メイン サービス アドレス空間で実行されている **CICS** ロガー タスクにトランザクションレコードを送信し、レコードが動的 **EXIT**、**GSVX.CICSTRAN** に渡されるようにします。
- **NODYNEXIT** - 以下の **CICSOPTS** 設定オプションのいずれかがトランザクションをオーバーライドする場合を除き、このトランザクションのデータは渡されません。
 - **TRANSACTION-LOG-IF-ABEND**
 - **TRANSACTION-LOG-IF-CICSEXC**
 - **TRANSACTION-LOG-IF-THRESHOLD**
- **WILYAPM** - メイン サービス アドレス空間で実行されている **CICS** ロガー タスクにトランザクション情報を送信し、情報がトランザクション追跡用に **Wily APM** に渡されるようにします。情報が収集され送信されるのは、**Wily APM** 製品がトランザクション追跡をリクエストした場合のみです。

- NOWILYAPM - 以下の CICSOPTS 設定オプションのいずれかがトランザクションをオーバーライドする場合を除き、トランザクション情報は送信されません。
 - TRANSACTION-LOG-IF-ABEND
 - TRANSACTION-LOG-IF-CICSEXC
 - TRANSACTION-LOG-IF-THRESHOLD

新規データフィールド:

- TranLog - レコードが定義済みのログ ストリームに書き込まれるように、メイン サービス アドレス空間で実行されている CICS ロガー タスクにトランザクションレコードを送信するかどうかを指定します。
- SMF - レコードが SMF に書き込まれるように、メイン サービス アドレス空間で実行されている CICS ロガー タスクにトランザクションレコードを送信するかどうかを指定します。
- DynExit - レコードが動的 EXIT、GSVX.CICSTRAN に書き込まれるように、メイン サービス アドレス空間で実行されている CICS ロガー タスクにトランザクションレコードを送信するかどうかを指定します。
- WilyAPM - 情報がトランザクション追跡用に CICS ロガー タスクに送信されるように、メイン サービス アドレス空間で実行されている CICS ロガー タスクにトランザクション情報を送信するかどうかを指定します。情報が収集され送信されるのは、Wily APM 製品がトランザクション追跡をリクエストした場合のみです。
- Internal - トランザクション オプション定義が内部で作成されたかどうかを指定します。内部で作成された定義は変更できません。

新規データフィールド:

- Log - トランザクション レコードがログに記録されるかどうかを指定します。

CWAITS

CICS 低下分析

新規データ フィールド:

- Metric - データ収集メトリック/変数の名前を表示します。
- DFHGroup、MCTNum - メトリックが CICS トランザクション パフォーマンス データ メトリックに関連する場合、表示される値は、CICS モニタ制御 テーブルで定義されている関連する CICS パフォーマンス データ名です。追加情報については、IBM の「*CICS Performance Guide*」を参照してください。メトリックが CICS パフォーマンス データ メトリックと関係がない場合、DFHGroup フィールドには "*" が表示され、MCTNum フィールドは ブランクになります。

トランザクション データ収集しきい値メトリック

データ収集しきい値メトリックが拡張され、以下の新規トランザクション変数が追加されました。

WMQASRB

WebSphere MQ API SRB 時間を表示します。

CICS Dump Management—Parmlib Member CICSDMPM

トランザクションが異常終了する場合は常に、CICS ジョブ ログへメッセージセットを書き込むことができます。新しい異常終了通知オプションは、提供する詳細レベルを指定する機能を提供します。トランザクション ID によって詳細レベルを指定します。

新しい通知オプション:

- **AbNotify** - この異常終了通知フィールドは、CICS トランザクションが異常終了した場合は常にメッセージをジョブ ログに書き込むかどうかを指定します。

異常終了が発生すると、異常終了するトランザクションをこのテーブルのエントリとマッチングする試みが行われます。一致が見つかる場合、**Abend Notify** メソッドはメッセージを書き込むメソッドを決定します。一致が見つからない場合、デフォルト設定オプションが使用されます。**parmlib** メンバ **CICSOPTS** 内の **ABEND-NOTIFICATION** パラメータはデフォルトを指定します。

有効な値は以下のとおりです。

- **NONE、NO** - メッセージは書き込まれません。
- **SHORT、YES** - 以下の情報を含めることができる単一の **GSVC201E** メッセージを書き込みます。
 - トランザクション ID
 - タスク番号
 - 異常終了コード
 - プログラム
 - リクエスト ID
 - リソース
- **LONG** - メッセージセットを書き込みます。これには、以下の情報を含めることができます。
 - トランザクション ID
 - タスク番号
 - 異常終了コード
 - プログラム
 - リクエスト ID
 - リソース

- PSW
- アクセスレジスタ
- 汎用レジスタ

設定オプション - Parmlib メンバ CICSOPTS

設定オプション メンバ CICSOPTS が拡張され、以下のオプションの追加が行われました。

DATALIB-AUTO-SAVE

初期化および終了中に、設定定義を永続データストレージ(DATALIB)に自動保存するかどうかを指定します。

初期化の最後に、PARMLIB メンバからの定義の読み取り(COLD スタート)によって取得された設定情報は、永続データストアへ自動保存されます。定義を永続データストアへ保存すると、WARM スタートを実行できます。

終了中に、初期化後に変更または更新された設定情報は永続データストアに自動的に保存され、次回 WARM スタート時に、その設定を再利用できます。

デフォルト: YES

「NO」が指定される場合、設定は手動で保存できます。

以下の PARMLIB メンバに含まれている情報は、永続データストアへ保存されます。

- CICSARTM
- CICSNCNL
- CICSDFPM
- CICSGRPS
- CICSCHD
- CICSSTAT
- CICSTHRS
- CICSOPT

MESSAGE-MLWTO-ENABLED

複数行 WTO として書き込まれる WTO リクエストを使用して、コンソールまたはジョブ ログに書き込まれるメッセージを有効にします。単一行 WTO メッセージは 126 文字に制限されます。

MESSAGE-MLWTO-ENABLED に「NO」を設定すると、メッセージの 126 文字を超える部分が切り捨てられます。

デフォルト: YES

MESSAGE-MLWTO-INDENT-CHARACTERS

複数行 WTO メッセージが有効な場合、読みやすくなるように、2 行目から n 行目をインデントできます。

- デフォルト: 9
- 最小: 0 インデントなし
- 最大: 16

MESSAGE-MLWTO-INDENT-CHARACTERS = 0 のサンプル メッセージ

```
GSVC100W (TPPT) TRANEND TRANS LIFETIME CEMT U032 NONE PROBLEM V=00:01:24 W=
7.500000 P= 10.000000 UPPER 0.000000 SYSVCICS CEMT 71
```

MESSAGE-MLWTO-INDENT-CHARACTERS = 9 のサンプル メッセージ

```
GSVC100W (TPPT) TRANEND TRANS LIFETIME CEMT U032 NONE PROBLEM V=00:01:24 W=
7.500000 P= 10.000000 UPPER 0.000000 SYSVC670 CEMT 71
```

MESSAGE-MLWTO-INDENT-CHARACTERS = 16 のサンプル メッセージ

```
GSVC100W (TPPT) TRANEND TRANS LIFETIME CEMT U032 NONE PROBLEM V= 00:01:24 W=
7.500000 P= 10.000000 UPPER 0.000000 SYSVCICS CEMT 71
```

MESSAGE-TASKNAME-INSERT

メッセージ ID の後にタスク名を挿入します。

デフォルト: YES

MESSAGE-TASKNAME-INSERT = YES のサンプル メッセージ

```
GSVC101I (XDIS) USR1234 has issued a CANCEL for the transaction CEMT GSVC102I
(XDIS) CANCEL Tran CEMT Task 124 WaitType ZCIOWAIT.
```

```
GSVC150W (GSVI) Function NORMAL_CANCEL Response 02 EXCEPTION
```

MESSAGE-TASKNAME-INSERT = NO のサンプル メッセージ

```
GSVC101I USR1234 has issued a CANCEL for the transaction CEMT GSVC102I CANCEL
Tran CEMT Task 124 WaitType ZCIOWAIT.
```

```
GSVC150W Function NORMAL_CANCEL Response 02 EXCEPTION
```

MONITOR-ENVIRONMENT-REUSE

データコレクタ終了時に、モニタリング環境が保持され再利用可能かどうかを指定します。

モニタリング環境部分は ECSA ストレージで保守されます。このストレージが再利用されます。このオプションを「NO」に設定すると、継続中の統計情報用に保守されているストレージは終了時に解放されます。

デフォルト: YES

PERFORMANCE-DATA-DB2-BY-PROGRAM

リクエストを行った一意のプログラムが DB2 セグメントを収集するかどうかを指定します。

一意のセグメントキーは以下のキーで構成されています。

- プログラム
- タイプ
- ステートメント

「NO」に設定されている場合、キーのプログラム部分は "*" に設定されます。

PERFORMANCE-DATA-DB2-BY-STMT

一意のリクエスト プログラム ステートメント番号が DB2 セグメントを収集するかどうかを指定します。

一意のセグメントキーは以下のキーで構成されています。

- プログラム
- タイプ
- ステートメント

「NO」に設定されている場合、キーのステートメント部分は 0 に設定されます。

PERFORMANCE-DATA-DB2-BY-TYPE

一意のリクエスト タイプが DB2 セグメントを収集するかどうかを指定します。

一意のセグメントキーは以下のキーで構成されています。

- プログラム
- タイプ
- ステートメント

「NO」に設定されている場合、キーのタイプ部分は "*" に設定されます。

PERFORMANCE-DATA-SEGLIMIT-DB2

DB2 リクエストに対して 1 つのトランザクションで収集される一意のセグメントの数を指定します。

n 個を超える一意のリソース セグメントが見つかる場合、以下のリソースキーの追加セグメントがすべて収集されます。

- プログラム - *
- タイプ - *
- ステートメント - 0
- 最小 = 1
- 最大 = 100
- デフォルト = 25

TERMINAL-STATES-CONSOLE

コンソール ターミナル定義のターミナル状態収集を実行するかどうかを指定します。

デフォルト: YES

このオプションでは、イベント スケジューラでデータ収集機能 **STATE-TERMINALS** がアクティブである必要があります。

TERMINAL-STATES-MRO

MRO ターミナル定義のターミナル状態収集を実行するかどうかを指定します。

デフォルト: YES

このオプションでは、イベント スケジューラでデータ収集機能 **STATE-TERMINALS** がアクティブである必要があります。

TERMINAL-STATES-VTAM

VTAM ターミナル定義のターミナル状態収集を実行するかどうかを指定します。

デフォルト: NO

このオプションでは、イベント スケジューラでデータ収集機能 **STATE-TERMINALS** がアクティブである必要があります。

トランザクション オプション -- Parmlib メンバ CICSTOPT

トランザクション オプション メンバ **CICSOPTS** が拡張され、以下の新規キーワード オプションが追加されました。

TRANLOG

レコードが定義済みのログ ストリームに書き込まれるように、メイン サービス アドレス空間で実行されている **CICS** ロガー タスクにトランザクションレコードを送信されます。

NOTRANLOG

以下の **CICSOPTS** 設定オプションのいずれかがデータをオーバーライドする場合を除き、このトランザクションのデータはログに記録されません。

- TRANSACTION-LOG-IF-ABEND
- TRANSACTION-LOG-IF-CICSEXC
- TRANSACTION-LOG-IF-THRESHOLD

オンライン統計が保守されます。**NOTHRESH** オプションがコーディングされない限り、しきい値処理が実行されます。

SMF

レコードが **SMF** に書き込まれるように、メイン サービス アドレス空間で実行されている **CICS** ロガー タスクにトランザクションレコードが送信されます。

NOSMF

以下の **CICSOPTS** 設定オプションのいずれかがデータをオーバーライドする場合を除き、このトランザクションのデータはログに記録されません。

- TRANSACTION-LOG-IF-ABEND
- TRANSACTION-LOG-IF-CICSEXC
- TRANSACTION-LOG-IF-THRESHOLD

DYNEXIT

レコードが動的 **EXIT**、**GSVX.CICSTRAN** に渡されるように、メイン サービス アドレス空間で実行されている **CICS** ロガー タスクにトランザクションレコードが送信されます。

NODYNEXIT

以下の **CICSOPTS** 設定オプションのいずれかがデータをオーバーライドする場合を除き、このトランザクションのデータは渡されません。

- TRANSACTION-LOG-IF-ABEND
- TRANSACTION-LOG-IF-CICSEXC

- TRANSACTION-LOG-IF-THRESHOLD

WILYAPM

情報がトランザクション追跡用に Wily APM に送信されるように、メイン サービス アドレス空間で実行されている CICS ロガー タスクにトランザクション情報が送信されます。情報が収集され送信されるのは、Wily APM 製品がトランザクション追跡をリクエストした場合のみです。

NOWILYAPM

以下の CICSOPTS 設定オプションのいずれかがデータをオーバーライドする場合を除き、トランザクション情報は送信されません。

- TRANSACTION-LOG-IF-ABEND
- TRANSACTION-LOG-IF-CICSEXC
- TRANSACTION-LOG-IF-THRESHOLD

以下のキーワードが削除されました。

LOG

トランザクション レコードをログに記録します。

NOLOG

トランザクション レコードをログに記録しません。

CICS トランザクション オプション定義

キーワード **LOG** および **NOLOG** は、新規キーワードによって置換および削除されました。これらの新規キーワードは、トランザクションレコードおよび情報のログ記録まで制御を拡張します。永続データストア (DATALIB) に格納されるトランザクション オプション定義は、新規定義構造に自動的に変換されます。前の定義にはキーワード **LOG** が含まれていて、以下のキーワード オプションが前の定義の複製に使用されます。

- **TRANLOG**
- **SMF**
- **DYNEXIT**
- **WILYAPM**

前の定義にはキーワード **NOLOG** が含まれていて、以下のキーワード オプションが前の定義の複製に使用されます。

- **NOTRANLOG**
- **NOSMF**
- **NODYNEXIT**
- **NOWILYAPM**

LOG および **NOLOG** キーワードが **parmlib** 定義にある場合、それらのも処理および変換されます。

仮想ストレージ制約解放

モジュールおよび永続ストレージはすべて、**31** ビットまたは **64** ビットのストレージに割り当てられるようになりました。

CA SYSVIEW for CICS Data Collector を使用した **CICS** 領域のモニタで使用するストレージのほとんどは、**64** ビット ストレージにあります。

構成オプションメンバ SYSVIEW

システム環境設定オプション メンバは、CA SYSVIEW の初期化中に設定オプションを設定するために使用されます。システム環境設定オプション メンバをシステム parmlib データ セットの連結内に配置します。

CA SYSVIEW for CICS Data Collector がデフォルトの GSVX 以外の CA SYSVIEW サブシステム ID へ接続している場合は、そのサブシステム ID を指定します。

以下のメソッドを使用して、デフォルトのサブシステム ID を指定するかオーバーライドします。

- CICS データ コレクタの起動

CICS データ コレクタを起動するためのトランザクション ID は GSVS です。

GSVS <initialization parameters>

以下に例を示します。

GSVS GSVI=tran,USERID=userid,START=start,SSID=ssid

- CICS データ コレクタの再起動

CICS データ コレクタを停止し再起動するためのトランザクション ID は GSVT です。

GSVT RESTART <initialization parameters>

以下に例を示します。

GSVT RESTART GSVI=tran,USERID=userid,START=start,SSID=ssid

- パラメータも、SIT INITPARM の一部として指定できます。

以下に例を示します。

```
INITPARM=(DFHMQPRM='SN=CSQ2,IQ=CICS.SYSVC660.INITQ',  
DFHDBCON='00,SVPB',GSVCGSVS='GSVI=*,USERID=*,START=*,SSID=*'),
```

CA DATACOM Option

CA SYSVIEW CA DATACOM Option が拡張されました。

追加されたコマンド

CA SYSVIEW CA Datacom/DB Option が拡張され、以下の新規コマンドが追加されました。

DCLOCKS

Datacom MUF ロック情報を表示します。

DCSYSOUT

Datacom MUF SYSOUT 情報を表示します。

DCBUFCON

Datacom MUF バッファプールの内容を表示します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

DCKEYS

Datacom ディレクトリ キーを表示します。

新規データ フィールド:

- **UsesRAAT** - このキー定義に対して一度に 1 つのレコードを検索し読み取る初期コマンドの数。この数は、KY/KG/KR/KL/KX/KI を指定して LOC/RED/RDU/CNT コマンドを実行するか、GSETL コマンドを実行するたびに、1 つずつ増えていきます。
- **UsesCBS** - 汎用キー使用数、つまりトラバーサル セット用に SELFR コマンドがこのキーを選択した回数を提供します。キーがリクエストの完了に使用されている場合、この数には決定するキーの内部 Datacom 使用は含まれていません。この数には、SQL によるコマンドの使用は含まれません。
- **UsesSQL** - 汎用キー使用数、つまりトラバーサル セット用に SELFR コマンドがこのキーを選択した回数を提供します。キーがリクエストの完了に使用されている場合、この数には決定するキーの内部 Datacom 使用は含まれていません。この数には、SQL によるコマンドの使用のみが含まれます。

DCLIST

モニタされた Datacom ジョブのリスト

名前が変更されたデータ フィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が C から変更され、Jobclass に展開されました。

DCTABLES

CA DATACOM ディレクトリ テーブルを表示します

新規データ フィールド:

- **ジョブクラス** - 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が C から変更され、展開されました。
- **Trigger** - テーブルに 1 つ以上の SQL トリガがあるかどうかを示します。
- **Partition** - テーブルがパーティションかどうかを示します。
- **FullName** - パーティションの場合、完全な親名を示します。

- FullParSQLauth - パーティションの場合、完全な親 SQL AUTHID を示します。
- FullParSQLname - パーティションの場合、完全な親 SQL 名を示します。
- AnyName - パーティションの場合、任意の親名を示します。
- AnyParSQLauth - パーティションの場合、任意の親 SQL AUTHID を示します。
- AnyParSQLname - パーティションの場合、任意の親 SQL 名を示します。

DB2

CA SYSVIEW DB2 DATACOM Option は機能強化されました。

DB2 に追加されたコマンド

CA SYSVIEW Option for DB2 が機能強化され、以下の新規コマンドが追加されました。

- DB2 - ターゲット DB2 サブシステムを設定します。
- DBBPOOLS - DB2 バッファプール情報を表示します。
- DBDSETS - DB2 オープン データ セットを表示します。
- DBERRMSG - DB2 エラー メッセージを表示します。
- DBLOGAL - DB2 ログ割り当てを表示します。
- DBLOGCKP - DB2 ログ チェックポイント情報を表示します。
- DBPRMBP - DB2 バッファプール パラメータ情報を表示します。
- DBPRMGBP - DB2 グループ バッファプール パラメータ情報を表示します。
- DBSQLDY - DB2 の動的 SQL キャッシュ情報を表示します。
- DBTHACT - DB2 のアクティブ スレッド情報を表示します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

DB2LIST

DB2 サブシステムリスト

新規構文パラメータ:

- **ALL** - エージェント CA Insight for DB2 がモニタしている DB2 サブシステムをすべて表示します。
- **GROUP** - 表示する DB2 サブシステムのリストが含まれるグループ名を指定する引数が後に続くかどうかを指定します。タイプが **DB2SSID** である利用可能なグループのリストは、**GROUPS** コマンドで見つけることができます。
グループ名には「*」を指定して、グループ処理が必要ないことを示すことができます。
- **MONitored** - エージェント CA Insight for DB2 がモニタしている DB2 サブシステムのみを表示します。

新規データフィールド:

- **Mon** - DB2 サブシステムが CA Insight for DB2 をモニタするかどうかを示します。
- **Conn** - エージェント CA Insight for DB2 XNET への接続のステータス。
- **XnetDirId** - エージェント CA Insight for DB2 XNET への接続の XNET ディレクタ ID 値。
- **XnetSock** - エージェント CA Insight for DB2 XNET への接続の XNET ディレクタ TCP ソケット番号。

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が **JC** から **Jobclass** に変更および拡張されました。

新規ライン コマンド:

- **IPLISTEN** - DB2 SSID が含まれるジョブ名の **IPLISTEN** を呼び出します。
- **IPTCONN** - DB2 SSID が含まれるジョブ名の **IPTCONN** を呼び出します。
- **START** - この DB2 サブシステム用のコマンド プレフィックスを使用して、MVS コマンド **START DB2** を呼び出します。
- **STOP** - この DB2 サブシステム用のコマンド プレフィックスを使用して、XMVS コマンド **STOP DB2 MODE(QUIESCE)** を呼び出します。

- STOPFOR - この DB2 サブシステム用のコマンドプレフィックスを使用して、XMVS コマンド STOP DB2 MODE(FORCE) を呼び出します。

Option for IMS

CA SYSVIEW Option for IMS が拡張されました。

CA APM 統合の IMS トランザクション追跡

CA SYSVIEW は CA APM Introscope Transaction Tracing を IMS に拡張します。CA APM 統合はエンド ツー エンドの可視性を向上させて、トランザクション パフォーマンスの問題を切り分けます。

IMS データ収集 - バッファプール

新しいデータ収集イベント機能が IMS バッファプールに追加されました。CA SYSVIEW イベント スケジューラは、データ収集イベントおよびスケジュールを制御します。

新規イベント スケジューラ機能

IMSDATA-BUFPOOLS

新規イベントは、IMS データ収集タスク IMSDATA の初期化中に、既存のスケジュールに動的に追加されます。

イベント スケジューラ定義が parmlib メンバ SCHDIMS に追加されました。

```
DEFINE IMS-BUFPOOLS
    GROUP      IMSDATA
    DESC       'IMS data collection - Buffer Pools      '
    TYPE       RECUR
    ALLDAYS
    DATEBEGIN  *           DATEEND *
    TIMEBEGIN  MIDNIGHT    TIMEEND *
    EVERY      1MINUTE
    LIMIT      NOLIMIT
    FUNCTION   IMSDATA-BUFPOOLS
    PARS       *
    ENABLED
ENDDDEFINE
```

IMS トランザクション モニタリング

リカバリ不能な照会および同期 OTMA トランザクション

CA SYSVIEW は、リカバリ不能な照会および同期 OTMA (Open Transaction Manager Access) トランザクションに対して、トランザクション履歴レコード (SMF 255 サブタイプ 34) を作成するようになりました。以前は、これらのトランザクションは領域アカウントレコード (SMF 255 サブタイプ 35) に要約されるのみでした。この変更によって、トランザクション履歴レコードのボリュームが増加します。

CA OPS/MVS イベント通知

しきい値または状態の例外がトリガされると、さまざまなアクションを実行できます。こうしたアクションの 1 つに、CA OPS/MVS に対する例外イベントの通知があります。

イベント通知によって JAPI ルール CAGSVP0001 がトリガされます。

以下の表に、利用可能な REXX 変数およびその値を示します。

REXX 変数	値
API.APPLICATION	SYSVIEW
API.VERSION	13.5a
API.LEVEL	00000713
API.ID	CAGSVP0001
API.COLOR	アラート色: 0 - デフォルト 1 - 緑 2 - 青 3 - 赤 4 - 白 5 - ピンク 6 - 黄 7 - 青緑
API.GROUP	変数メトリック グループ名

REXX 変数	値
API.NAME	変数メトリック名
API.DESRIPTION	変数メトリックの説明
API.IMSID	IMS サブシステム ID
API.RESOURCE	関連するリソース
API.STATUS	現在のステータス
API.VALUE	現在値
API.ELAPSED (新規 REXX 変数)	通知後の経過時間
API.TEXT	例外メッセージ テキスト

追加されたコマンド

Option for IMS が拡張され、以下の新規コマンドの追加が行われました。

IMSOMAT

IMS OM 監査証跡を表示します。

IMSOMAX

IMS OM オーディット応答レコードを表示します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

IMSALEERT

IMS 例外アラート。

新規構文パラメータ:

- ACK - 受信確認されたアラートおよび受信確認されなかったアラートの両方を表示します。
- NOACK - 受信確認されたアラートを表示しません。
- XSYSstem、XSData - これにより、この実行に対してクロス システム データ収集が強制的に有効になります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。
- NOXSYSstem、NOXSData - これにより、この実行に対してクロス システム データ収集が強制的に無効になります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。

新規ライン コマンド:

- ACK - METRIC コマンドを呼び出して、アラートを受信確認します。
- CLR - METRIC コマンドを呼び出して、受信確認したアラートをクリアします。

新規データ フィールド:

- ACK - アラートが受信確認されたことを示します。
- Pri - 例外の相対的な優先度を示します。
- AckElaps - アラートの受信確認後の経過時間を示します。
- AckDate - アラートが受信確認された日付を示します。
- AckTime - アラートが受信確認された時刻を示します。

名前が変更されたデータ フィールド:

- Resource - 引数名が変更されました。

IMSDATA

IMS データ収集オプションを設定します。

新規パラメータ:

- IMSDATA-BUFPOOLS - データ収集タイプに対して、しきい値処理を制御します。

新規構文パラメータ:IMSDATA THRESH *datatype*

- *datatype* - データ収集タイプを指定します。有効な値は以下のとおりです。
 - IMSDATA-BUFPOOLS
 - IMSDATA-POOLS
 - IMSDATA-SYSTEM
 - IMSDATA-TRANSUM

IMSLOCKS

IMS IRLM ロックを表示します。

新規データ フィールド:

- DCB - データベース データ セット DCB 番号。
- RBA - データベース RBA。

IMSOSAM

IMS OSAM 統計情報を表示します。

新規情報フィールド:

- Max - シーケンシャル バッファ ストレージの場合の最大量。
- Free - 利用可能なシーケンシャル バッファ ストレージの量。
- Curr - シーケンシャル バッファ ストレージの現在使用されている量。
- High - 使用されているシーケンシャル バッファ ストレージのハイ ウォーターマーク。

IMSSTATE

IMS 状態定義を表示します。

新規構文パラメータ:

- SAVE - 定義を永続データストアに保存します。

新規データ フィールド:

- Pri - 例外の優先度。優先度を使用して、PROBLEM など同じステータスレベルにある例外をソートします。
- TimeBeg - 定義が適用可能である開始時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeEnd - 定義が適用可能である終了時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeRng - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。
- Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat - 例外が指定された曜日に実行可能であることを指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「YES」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「NO」を入力します。
- SMTWTFS - 適した曜日。
- Active - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値：
 - ACTIVE - 定義は、現在処理可能です。
 - INACTIVE - 定義は、現在処理可能ではありません。
- Disabled - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータフィールド：

- IMOD - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド：

- DELETE - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ラインコマンドを使用して、定義を削除します。

IMSTIMES

IMS トランザクション時間を表示します。

新規データフィールド：

- OSAwait - OSAM I/O IWait 時間。

削除されたデータフィールド：

- DMBLoad - DMB ブロックローダ時間
- FmtBPool - フォーマット バッファ プール時間

- MFSBlock - MFS ブロック IWait 時間
- MFSDir - MFS dir IWait 時間
- MPPSched - MPP スケジュール時間
- PSBLoad - PSB ブロック ロード時間
- QMGRIIO - QMGR I/O IWait 時間
- QMGRSnap - QMGR SNAPQ IWait 時間
- SchedCnt - トランザクション スケジュール
- VSOCastO - VSO 領域キャストアウト時間
- VSOLoad - VSO 事前ロード時間

IMSTHRSH

IMS しきい値定義を表示します。

新規構文パラメータ:

- SAVE - 定義を永続データストアに保存します。

新規データフィールド:

- Pri - 例外の優先度。優先度を使用して、PROBLEM など同じステータスレベルにある例外をソートします。

- TimeBeg - 定義が適用可能である開始時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeEnd - 定義が適用可能である終了時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeRng - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。

- Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat - 例外が指定された曜日に実行可能であることを指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「YES」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「NO」を入力します。
- SMTWTFS - 適した曜日。
- Active - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値：
 - ACTIVE - 定義は、現在処理可能です。
 - INACTIVE - 定義は、現在処理可能ではありません。
- Disabled - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータフィールド:

- IMOD - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド:

- DELETE - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ラインコマンドを使用して、定義を削除します。

IMSTRANS

IMS トランザクション コードを表示します。

新規データ フィールド

- Transtat - トランザクション レベル統計インジケータ。

IMSVARS

利用可能な IMS モニタ変数を表示します。

名前が変更されたデータフィールド:

- Resource - 引数名が変更されました。

追加されたデータ収集しきい値メトリック

以下のしきい値メトリックが追加され、データ収集が拡張されました。

IMBPFREE

バッファプールフリー

リソース: IMSBUFP

IMBPOVER

バッファプールオーバーフロー

リソース: IMSBUFP

IMBPSIZE

バッファプールサイズ

リソース: IMSBUFP

IMBPUSE%

バッファプール使用済みパーセント

リソース: IMSBUFP

IMBPUSED

使用されているバッファプール

リソース: IMSBUFP

IMSLARCH

アーカイブが必要な OLDS データセット

リソース: なし

IMSLBUFW

チェックポイント中の出力バッファ待機数

リソース: なし

IMSLCHKW

SLOG CHKW リクエスト

リソース: なし

IMSLERR

I/O エラーが発生した OLDS データセット

リソース: なし

IMSLFULL

完全 OLDS データセット

リソース: なし

IMSLINAC

非アクティブ OLDS データセット

リソース: なし

IMSLREAD

SLOG 読み取りリクエスト

リソース: なし

IMSLSTOP

停止済み OLDS データセット

リソース: なし

IMSLWRIT

SLOG 書き込みリクエスト

リソース: なし

IMTROIWC

IMS OSAM IWAIT 数

リソース: IMSTRAN

IMTROIWT

IMS OSAM IWAIT 時間

リソース: IMSTRAN

削除済みデータ収集トランザクション

以下のしきい値メトリックは削除されました。

- IMTRBSCC - IMS BMP スケジュール数。
- IMTRBSCT - IMS BMP スケジュール時間。
- IMTRBTMC - IMS BMP 期間数。
- IMTRBTMT - IMS BMP 期間時間。
- IMTRDBLC - IMS DMB ブロック ロード数。
- IMTRDBLT - IMS DMB ブロック ロード時間。
- IMTRFBIC - IMS フォーマット バッファ プール数。
- IMTRFBIT - IMS フォーマット バッファ プール時間。
- IMTRMBIC - IMS MFS ブロック IWAIT 数。
- IMTRMBIT - IMS MFS ブロック IWAIT 時間。
- IMTRMDQC - IMS MPP DQ 数。
- IMTRMFIC - IMS MFS ディレクトリ IWAIT 数。
- IMTRMFIT - IMS MFS ディレクトリ IWAIT 時間。
- IMTRMSCC - IMS MPP スケジュール数。
- IMTRMSCT - IMS MPP スケジュール時間。
- IMTRMTMC - IMS MPP 期間数。
- IMTRMTMT - IMS MPP 期間時間。
- IMTRPBLC - IMS PSB ブロック ロード数。
- IMTRPBLT - IMS PSB ブロック ロード時間。
- IMTRQCNT - IMS キュー数。
- IMTRQIWC - IMS QMGR I/O IWAIT 数。
- IMTRQIWT - IMS QMGR I/O IWAIT 時間。
- IMTRQSQC - IMS QMGR SNAPQ IWAIT 数。
- IMTRQSQT - IMS QMGR SNAPQ IWAIT 時間。
- IMTRSCHD - IMS トランザクション スケジュール。
- IMTRVSCC - IMS VSO エリア キャストアウト数。
- IMTRVSCT - IMS VSO エリア キャストアウト時間。

- IMTRVSOC - IMS VSO プリロード数。
- IMTRVSOT - IMS VSO プリロード時間。

IMS オプション Parmlib メンバ IMS

以下のオプションが parmlib メンバ IMS から削除されました：

AUTO-SWITCH-IMSCMD

この機能は SET IMSTGTDEF コマンドに含まれるようになりました。

IMS Logger Options Parmlib メンバ IMSLOGR

以下のオプションが parmlib メンバ IMSLOGR から削除されました：

SKIP-DBT-SLOG-RECORDS

IMSLOGR タスクが DBT によって書き込まれた DC Monitor レコードをスキップするかどうかを指定します。

デフォルト：NO

SKIP-DBT-DLI-SLOG-RECORDS

IMSLOGR タスクが DBT によって書き込まれた DLI DC Monitor レコードをスキップするかどうかを指定します。

デフォルト：YES

CA Roscoe コンポーネント

CA SYSVIEW は CA Roscoe のジョブの実行を監視し、それに関する情報を表示します。このコンポーネントへの拡張が行われました。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

ROSLIST

モニタされた CA Roscoe ジョブをリスト表示します。

名前が変更されたデータフィールド：

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が C から変更され、Jobclass に展開されました。

TCP/IP オプション

CA SYSVIEW の TCP/IP オプションが拡張されました。

CA OPS/MVS イベント通知

しきい値または状態の例外がトリガされると、さまざまなアクションを実行できます。こうしたアクションの 1 つに、CA OPS/MVS に対する例外イベントの通知があります。

イベント通知によって JAPI ルール CAGSVN0001 がトリガされます。

以下の表に、利用可能な REXX 変数およびその値を示します。

REXX 変数	値
API.APPLICATION	SYSVIEW
API.VERSION	13.5a
API.LEVEL	00000713
API.ID	CAGSVN0001
API.COLOR	アラート色: 0 - デフォルト 1 - 緑 2 - 青 3 - 赤 4 - 白 5 - ピンク 6 - 黄 7 - 青緑
API.GROUP	変数メトリック グループ名
API.NAME	変数メトリック名
API.DESCRPTION	変数メトリックの説明
API.TCPID	スタックの TCP/IP ジョブ名
API.RESOURCE	関連するリソース
API.STATUS	現在のステータス

REXX 変数	値
API.VALUE	現在値
API.ELAPSED (新規 REXX 変数)	通知後の経過時間
API.TEXT	例外メッセージ テキスト

追加されたコマンド

Option for TCP/IP が拡張され、以下の新規コマンドの追加が行われました。

IPEESUM

Enterprise Extended サマリを表示します。

IPEECONN

Enterprise Extended 接続を表示します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

IPCONFIG

IP 設定を行います。

新規データフィールド: SMF タイプ 119 パラメータ

- DVIPA - 動的仮想 IP アドレス (DVIPA) に関連するシスプレックスイベントに対して、サブタイプ 32、33、34、35、36、37 レコードが作成されるかどうかを決定します。

新規データフィールド: グローバル設定

- Join - スタック初期化中にスタックがシスプレックスグループに参加するかどうかを示します。

新規データフィールド: IPV6 設定

- ChecksumOffload - IPv6 に対してチェックサム オフロード サポートが有効かどうかを示します。
- SegOffload - IPv6 に対して TCP セグメンテーション オフロード サポートが有効かどうかを示します。

新規データフィールド: ネットワーク モニタ設定

- ChecksumOffload - IPv4 に対してチェックサム オフロード サポートが有効かどうかを示します。
- CsMail - リアルタイム SMF サービスがサブタイプ 50 用の SMF 119 レコードを作成するかどうかを決定します。
- CsSMTP - リアルタイム SMF サービスがサブタイプ 48、49、52、52 用の SMF 119 レコードを作成するかどうかを決定します。
- DVIPA - 動的仮想 IP アドレス (DVIPA) に関連するシスプレックスイベントに対して、サブタイプ 32、33、34、35、36、37 レコードが作成されるかどうかを決定します。
- SegOffload - IPv4 に対して TCP セグメンテーション オフロード サポートが有効かどうかを示します。

IPSTATS

IP 統計を表示します。

新規データフィールド: TCP セグメント統計

- Rcvd on OSA Bulk Queues - 関数の BulkData の補助入力キュー (AIQ) をキューにする OSA-Express QDIO インバウンドワークロードから受信されるセグメントの数。

新規データフィールド: TCP 接続統計

- Current Stalled - データフロー送信に対してストールした接続の数。考えられる原因として、TCP 送信キューがいっぱいか、TCP 送信ウィンドウサイズに問題があります。
- Current Servers Flooded - 接続フラッド攻撃を受ける可能性のある TCP サーバの数。考えられる原因としては、受信リクエストを処理するために、バックログ キューを展開する必要があることが挙げられます。この数が 25 を超える場合は、サーバ バックログ キューの展開は許可されません。

IPUSERS

TCP/UDP ユーザに関する情報を表示します。

新規データフィールド:

- Bytes - 合計送受信バイト数
- Delta - インターバル間の合計送受信バイト数
- Rate - 合計送受信バイトレート

TCPALERT

TCP/IP 例外アラートを表示します。

新規構文パラメータ:

- ACK - 受信確認されたアラートおよび受信確認されなかったアラートの両方を表示します。
- NOACK - 受信確認されたアラートを表示しません。
- XSYSstem、XSData - これにより、この実行に対してクロス システム データ収集が強制的に有効になります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。
- NOXSYSstem、NOXSData - これにより、この実行に対してクロス システム データ収集が強制的に無効になります。XSData の現在のプロファイル設定は保持されます。

新規ライン コマンド:

- ACK - METRIC コマンドを呼び出して、アラートを受信確認します。
- CLR - METRIC コマンドを呼び出して、受信確認したアラートをクリアします。

新規データフィールド:

- ACK - アラートが受信確認されたことを示します。
- Pri - 例外の相対的な優先度を示します。
- AckElaps - アラートの受信確認後の経過時間を示します。
- AckDate - アラートが受信確認された日付を示します。
- AckTime - アラートが受信確認された時刻を示します。

名前が変更されたデータフィールド:

- Resource - 引数名が変更されました。

TCPLIST

TCP/IP イメージを表示します。

名前が変更されたデータフィールド:

- 8 文字のジョブクラスをサポートするために、名前が JC から Jobclass に変更および拡張されました。

TCPSTATE

TCP/IP 状態定義を表示します。

新規構文パラメータ:

- SAVE - 定義を永続データストアに保存します。

新規データフィールド:

- Pri - 例外の優先度。優先度を使用して、PROBLEM など同じステータスレベルにある例外をソートします。
- TimeBeg - 定義が適用可能である開始時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeEnd - 定義が適用可能である終了時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- TimeRng - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。
- Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat - 例外が指定された曜日に実行可能であることを指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「YES」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「NO」を入力します。
- SMTWTFS - 適した曜日。
- Active - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値:
 - ACTIVE - 定義は、現在処理可能です。
 - INACTIVE - 定義は、現在処理可能ではありません。

- Disabled - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータフィールド:

- IMOD - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド:

- DELETE - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ライン コマンドを使用して、定義を削除します。

TCPTHRSH

TCP/IP しきい値定義を表示します。

新規構文パラメータ:

- **SAVE** - 定義を永続データストアに保存します。

新規データフィールド:

- **Pri** - 例外の優先度。優先度を使用して、**PROBLEM** など同じステータスレベルにある例外をソートします。
- **TimeBeg** - 定義が適用可能である開始時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM
12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM
NOON | MIDNIGHT
- **TimeEnd** - 定義が適用可能である終了時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM
12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM
NOON | MIDNIGHT
- **TimeRng** - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。
- **Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat** - 例外が指定された曜日に実行可能であることを指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「YES」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「NO」を入力します。
- **SMTWTFS** - 適した曜日。
- **Active** - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値:
 - **ACTIVE** - 定義は、現在処理可能です。
 - **INACTIVE** - 定義は、現在処理可能ではありません。
- **Disabled** - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータフィールド:

- **IMOD** - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド:

- DELETE - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ラインコマンドを使用して、定義を削除します。

TCPVARS

利用可能な TCP/IP モニタ変数を表示します。

名前が変更されたデータフィールド:

- Resource - 引数名が変更されました。

データ収集しきい値のメトリック

以下のしきい値メトリック変数が追加され、データ収集が機能強化されました。

IPSROSAB

OSA バルク キュー上の受信済みセグメントを表示します。

リソース: なし。

Option for WebSphere MQ

CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ が拡張されました。

CA OPS/MVS イベント通知

しきい値または状態の例外がトリガされると、さまざまなアクションを実行できます。こうしたアクションの 1 つに、CA OPS/MVS に対する例外イベントの通知があります。

イベント通知によって JAPI ルール CAGSVS0001 がトリガされます。

以下の表に、利用可能な REXX 変数およびその値を示します。

REXX 変数	値
API.APPLICATION	SYSVIEW
API.VERSION	13.5a
API.LEVEL	00000713
API.ID	CAGSVS0001

REXX 変数	値
API.COLOR	アラート色: 0 - デフォルト 1 - 緑 2 - 青 3 - 赤 4 - 白 5 - ピンク 6 - 黄 7 - 青緑
API.GROUP	変数メトリック グループ名
API.NAME	変数メトリック名
API.DESCRPTION	変数メトリックの説明
API.QMGR	キュー マネージャ
API.RESOURCE	関連するリソース
API.STATUS	現在のステータス
API.VALUE	現在値
API.ELAPSED (新規 REXX 変数)	通知後の経過時間
API.TEXT	例外メッセージテキスト

追加されたコマンド(MQ)

Option for WebSphere MQ が機能強化され、以下の新規コマンドが追加されました。

MQCHAUTH

MQ チャネル認証を表示します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

MQALERTS

WebSphere MQ 例外アラート

新規構文パラメータ:

- ACK - 受信確認されたアラートおよび受信確認されなかったアラートの両方を表示します。
- NOACK - 受信確認されたアラートを表示しません。
- XSYSstem、XSData - これにより、この実行に対してクロス システム データ収集が強制的に有効になります。XSDATA の現在のプロファイル設定は保持されます。
- NOXSYSstem、NOXSData - これにより、この実行に対してクロス システム データ収集が強制的に無効になります。XSDATA の現在のプロファイル設定は保持されます。

新規ライン コマンド:

- ACK - METRIC コマンドを呼び出して、アラートを受信確認します。
- CLR - METRIC コマンドを呼び出して、受信確認したアラートをクリアします。

新規データ フィールド:

- ACK - アラートが受信確認されたことを示します。
- Pri - 例外の相対的な優先度を示します。
- AckElaps - アラートの受信確認後の経過時間を示します。
- AckDate - アラートが受信確認された日付を示します。
- AckTime - アラートが受信確認された時刻を示します。

名前が変更されたデータ フィールド:

- Resource - 引数名が変更されました。

MQCHAN

MQ チャネル定義

新規ライン コマンド:

- AUTH - 選択したチャネル用の MQCHAUTH コマンドを呼び出します。

MQCHCRCV

MQ クラスタ受信者チャンネル。

新規ライン コマンド:

- AUTH - 選択したチャンネル用の MQCHAUTH コマンドを呼び出します。

MQCHRCVR

MQ 受信者チャンネル

新規ライン コマンド:

- AUTH - 選択したチャンネル用の MQCHAUTH コマンドを呼び出します。

MQCHSCON

MQ サーバ チャンネルが接続されました

新規ライン コマンド:

- AUTH - 選択したチャンネル用の MQCHAUTH コマンドを呼び出します。

MQCHSTAT

MQ チャンネル ステータス

新規構文パラメータ:

- ACTIVE - フィルタリングして、ステータスが SAVED または INACTIVE のチャンネルを除外します。

新規ライン コマンド:

- AUTH - 選択したチャンネル用の MQCHAUTH コマンドを呼び出します。

MQLIST

MQ サブシステム リスト

新規ライン コマンド:

- REFEXP - REFRESH QMGR TYPE(EXPIRY) コマンドを発行します。
- REFPROXY - REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB) コマンドを発行します。

MQSTATES

MQ 状態定義

新規構文パラメータ:

- SAVE - 定義を永続データストアに保存します。

新規データ フィールド:

- Pri - 例外の優先度。優先度を使用して、PROBLEM など同じステータスレベルにある例外をソートします。

- **TimeBeg** - 定義が適用可能である開始時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- **TimeEnd** - 定義が適用可能である終了時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。

12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM

12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM

NOON | MIDNIGHT

- **TimeRng** - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。
- **Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat** - 例外が指定された曜日に実行可能であることを指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「YES」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「NO」を入力します。
- **SMTWTFS** - 適した曜日。
- **Active** - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値：
 - **ACTIVE** - 定義は、現在処理可能です。
 - **INACTIVE** - 定義は、現在処理可能ではありません。
- **Disabled** - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータフィールド：

- **IMOD** - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド：

- **DELETE** - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ラインコマンドを使用して、定義を削除します。

MQTHRESH

MQしきい値定義

新規構文パラメータ:

- SAVE - 定義を永続データストアに保存します。

新規データフィールド:

- Pri - 例外の優先度。優先度を使用して、PROBLEM など同じステータスレベルにある例外をソートします。
- TimeBeg - 定義が適用可能である開始時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。
12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM
12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM
NOON | MIDNIGHT
- TimeEnd - 定義が適用可能である終了時間。HH:MM:SS 形式で時間を指定します。以下の値のいずれかを使用して、時間値を定義できます。
12AM | 1AM | 2AM | ... | 11AM
12PM | 1PM | 2PM | ... | 11PM
NOON | MIDNIGHT
- TimeRng - 定義が使用可能である時間範囲または間隔。
- Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat - 例外が指定された曜日に実行可能であることを指定します。曜日を使用可能にするには、該当するフィールドに 3 文字の名前または「YES」を入力します。曜日を使用不能にするには、該当するフィールドに「NO」を入力します。
- SMTWTFS - 適した曜日。
- Active - 定義の現在アクティブなステータス。設定可能な値:
 - ACTIVE - 定義は、現在処理可能です。
 - INACTIVE - 定義は、現在処理可能ではありません。
- Disabled - 定義が現在有効か無効かを示します。例外定義が無効な場合、定義は使用されません。

名前が変更されたデータフィールド:

- IMOD - 「Run」の名前が変更されました。

削除されたサブコマンド:

- DELETE - DELETE サブコマンドが削除されました。DELETE ライン コマンドを使用して、定義を削除します。

MQVARS

MQ モニタ変数

名前が変更されたデータ フィールド:

- Resource - 引数名が変更されました。

構成オプション メンバ - MQSERIES

構成設定オプション メンバ MQSDATA が拡張され、以下のオプションの追加が行われました。

API-LOAD-LIBRARY

MQ Interface ロード ライブラリの名前を指定します。ライブラリが STEPLIB または LINKLIST 連結内にあるか、インタフェース モジュールが LPA に配置されている場合は、キーワード LINKLIST を使用します。

例:

LINKLIST

MQSERIES.SCSQLOAD

デフォルト値は NONE で、MQ API モジュールがロードされないことを意味します。

CHLAUTH-DATA-QUEUE

チャンネル認可データが含まれるキューの名前を指定します。

CA APM 統合

CA SYSVIEW と CA APM の統合が機能強化されました。

IMS トランザクション追跡

CA SYSVIEW は CA APM Introscope Transaction Tracing を IMS に拡張します。これによってエンド ツー エンドの可視性が向上し、迅速にトランザクション パフォーマンスの問題を切り分けるために中心的な役割を果たす Introscope 価が機能強化されました。

コンポーネント

CA SYSVIEW コンポーネントの拡張機能についてこのセクションで説明します。

オーディット イベント コンポーネント

オーディット イベント コンポーネントは、CA SYSVIEW 製品内で実行されるアクティビティおよびアクションを追跡または監査します。オーディット イベント コンポーネントはリソースの置き換えや変更を行うアクティビティを記録するように設計されます。

機能強化された監査イベント

監査イベントに対して、以下の機能強化が行われました。

SESSION_LOGOFF

セッション終了レコードが機能拡張され、zIIP 使用状況情報および SAF リクエスト情報が含まれるようになりました。

SAF 統計セクションが表示されるのは、ユーザがそのユーザグループに対して SAF エンティティクラスを定義した場合のみです。

セクション: zIIP usage:

Total CPU time	18.32178	
TCB CPU time	6.954424	
SRB CPU time	11.36736	
Enclave time	11.36728	62.04%
zIIP time	11.08692	60.51%
zIIP on CP time	0.280360	2.47%
zIIP switches	372919	
zIIP ALESERV requests	1	
zIIP SRB starts	2	

Section: Command execution:

Command	SubCmd	Count	Pct%	CPUTime	EnclTime	ePct%	zSwitch
ACTIVITY		1	2%	0.017236	0.011443	66.39%	154
ACTSUM		2	4%	0.350080	0.349390	99.80%	10
CGBLEXIT		1	2%	0.005389	0.004375	81.18%	68
CICSLIST		1	2%	0.031654	0.026766	84.56%	106

セクション: SAF statistics:

SAF calls made	1012
SAF calls avoided	3267
--- Total SAF calls ---	4279
JQUE calls	0
JTYP calls	0
NTFY calls	1074
USER calls	1410
JOBN calls	1410

DDNM calls	0
WTRN calls	0
RESN calls	345
CMND calls	10
SUBC calls	0
Other calls	30
Access Entity Table (AET) size	256K
SAF CPU time	0.101173
SAF elapsed time	0.765851
SAF exit CPU time	9.908062
SAF exit elapsed time	45.73008

CA グラフィカル管理インターフェース

CA SYSVIEW CA GMI コンポーネントは、最新の GMI Windows GUI インターフェースを提供します。ユーザはこのインターフェースから CA SYSVIEW にアクセスし操作を行うことができます。このインターフェースへの拡張が行われました。

追加されたオブジェクト

以下のオブジェクトが CA SYSVIEW CA GMI コンポーネント インターフェースに追加されました。

- ASPERF - アドレス空間のパフォーマンス
- CPROFILE - プロファイル
- CURIMAPS - URI マップ
- CXDISTAT - 外側データ インタフェース
- DBBPOOLS - バッファプール
- DBDSETS - 開いているデータ セット
- DBERRMSG - エラー メッセージ
- DBLOGAL - ログ割り当て
- DBLOGCKP - ログ チェックポイント
- DBPRMBP - バッファプール パラメータ
- DBPRMGBP - グループ バッファプール パラメータ
- DBPRMS - システム パラメータ
- DBSQLDY - SQL の動的キャッシュ
- DBSTG - ストレージ統計
- DBTHACT - アクティブなスレッド
- IMSOMAT - Operation Manager 監査ログ
- IPEECONN - EE 接続
- IPEESUM - EE サマリ
- LISTDIR - リスト MODID ディレクトリ
- MODULES - MODID を持ったモジュール
- MQCHAUTH - チャンネル認証
- SYSDMON - データ収集モニタ

拡張されたオブジェクト (GMI)

以下のオブジェクトが拡張されました。

ALERTS

z/OS 例外アラートを表示します。

新規アクション:

- Acknowledge - アラートを受信確認します。
- Clear - 受信確認済みアラートをクリアします。

CALERTS

CICS 例外アラートを表示します。

新規アクション:

- Acknowledge - アラートを受信確認します。
- Clear - 受信確認済みアラートをクリアします。

CDUMPMGT

ダンプ管理定義および統計のリストを表示します。ダンプ管理では、不要なダンプを行わないようにすることができます。

新規アクション:

- DELETE - 選択された定義を削除します。

DB2LIST

現在定義または実行されている DB2 アドレス空間およびサブシステムに関する情報を表示します。

新規アクション:

- Set Current Target - 現在の DB2 ターゲット アドレス空間を設定します。
- Start DB2
- Stop DB2
- Stop DB2 Force

IMSALEERT

IMS データ収集例外アラートを表示します。

新規アクション:

- Acknowledge - アラートを受信確認します。
- Clear - 受信確認済みアラートをクリアします。

MQALERTS

MQ データ収集例外アラートを表示します。

新規アクション:

- Acknowledge - アラートを受信確認します。
- Clear - 受信確認済みアラートをクリアします。

MQCHAN

MQ チャネル定義を表示します。

新規ズーム:

- チャネル認証

MQCHCRCV

クラスタ受信者チャンネルに関する情報を表示します。

新規ズーム:

- チャンネル認証

MQCHRCVR

受信者チャンネルに関する情報を表示します。

新規ズーム:

- チャンネル認証

MQCHSCON

サーバ接続に関する情報を表示します。

新規ズーム:

- チャンネル認証

MQCHSTAT

MQ チャンネルのステータスを表示します。

新規ズーム:

- チャンネル認証

STATES

現在の状態定義を表示します。

削除されたアクション:

- Delete - Delete のオブジェクトレベル アクションが削除されました。
Delete の行レベル アクションは利用可能です。

TCPALERTS

TCP 例外アラートを表示します。

新規アクション:

- Acknowledge - アラートを受信確認します。
- Clear - 受信確認済みアラートをクリアします。

THRESH

現在の z/OS しきい値定義を表示します。

削除されたアクション:

- Delete - Delete のオブジェクトレベル アクションが削除されました。Delete の行レベル アクションは利用可能です。

SYS--Objects Rename

以下のオブジェクトの名前が変更されました:

- JINIT の以前の名前は INIT でした。
- JOUTDES の以前の名前は OUTDES でした。
- JTRANQUE の以前の名前は APPCOUTQ でした。

オブジェクト ツリーの機能拡張

オブジェクト ツリーの機能が拡張され、以下のフォルダが追加されました。

CA SYSVIEW¥Network¥Enterprise Extender

新規 TCP エンタープライズ拡張コマンドが含まれています。

CA SYSVIEW¥Databases¥CA Datacom¥MUF Database Monitoring

DCLOG および DCBUFP オブジェクトはこのフォルダに移動されました。

セキュリティ

CA SYSVIEW セキュリティが拡張されました。

セキュリティ データ セットの変換

インストール中に、変換ユーティリティ GSVXCNV は CA SYSVIEW の前リリースのセキュリティ データ セットを現在のリリース 13.5 用に変換します。

セキュリティ ファイルが変換されると、13.5 で導入されたコマンドのコマンド許可は FAILED と表示されます。コマンドを FAILED と表示することで、セキュリティ管理者の調査がないまま新規コマンドが既存システムに導入されるのが阻止されます。

セキュリティ管理者は、CA SYSVIEW にログオンし、SECURITY コマンドを発行してコマンド許可を更新することができます。

外部セキュリティに関する考慮事項

このリリースの CA SYSVIEW に新規コマンドが追加されました。追加の外部セキュリティルールが必要になりました。

サンプル SAF EXIT、SAFSECX および JSPLSECX のサポートが停止されました。SAF エンティティは、CA SYSVIEW 内部で行われるように変更されました。ユーザの内部セキュリティグループ、または GLOBAL グループの External Security セクションで SAF エンティティを定義して、SAF エンティティチェックを有効にします。

SAF をコールする前に、事前 SAF 通知 EXIT をコールできます。CA SYSVIEW はクラス名およびエンティティ名を EXIT へ渡します。

注: 詳細については、「*Security Guide*」を参照してください。

SAF リソースコールは現在、特定のリソースタイプに対して中止されています。以前は、すべてのリソースコールを中止する機能は、エンティティ SV.SUSP.<system>.RESN に対するユーザ読み取りアクセスを許可することで実行できました。現在では、エンティティ SV.SUSP.<system>.RESN.<resource> に対してユーザ読み取りアクセスを許可することで、特定のリソースタイプを中止できます。

例: リソース チェックの中止

以下の中止ルールをコーディングして、スプールに対するジョブが含まれている出力クラスに対するすべてのリソース チェックを中止できます。

```
SV.SUSP.<system>.RESN.OUTCLASS
```

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

SECURITY

セキュリティ管理

Miscellaneous セクション

CA SYSVIEW セキュリティ ユーザ グループの **Miscellaneous** セクションには新規オプションが含まれ、複数のコマンド グループで定義されているコマンドへのアクセスを制御するために使用されます。

Option(YES, NO)

任意の **CMDGROUP** で失敗した場合は失敗コマンド。有効な値は以下のとおりです。

YES - 任意のコマンド グループでコマンドが失敗した場合に、コマンドへのアクセスを拒否します。

NO - 任意のコマンド グループでコマンドが失敗した場合に、コマンドへのアクセスを許可します。

External Security セクション

- **CA SYSVIEW** セキュリティ ユーザ グループの **External Security** セクションには以下の新規オプションが含まれ、外部セキュリティリクエストの制御に使用されます。

- オプション: **SAF Entity Class Name**

外部セキュリティでコマンドおよびその他のリソースの使用を検証したい場合に使用される **SAF** リソース クラス名。**SAF** 許可コールを省略する場合は **NONE** を指定します。**NONE** が指定されると、コマンドとリソースの検証はすべて内部セキュリティ定義を使用して実行されます。

- オプション: **SAF Entity Name Prefix**

SAF コールのエントリティ名を作成するために使用される、プレフィックスまたは最初のノード名。このプレフィックスが使用されるのは、**SAF** エンティティクラスが定義されている場合のみです。

- オプション: **Use JESSPOOL for Job Validation**

すべてのジョブ名検証コールに JESSPOOL リソースを使用する場合は、値に YES を指定します。他のすべてのリソース検証では、従来どおり SAF エンティティクラス名に対して定義されているリソースを使用します。SAF で JESSPOOL リソースのみ (CMND、SUBC、RESN などに対する SAF コールなし) 検証したい場合は、SAF エンティティクラス名に対して JESSPOOL を指定します。

- オプション: Use System SMFID in Entity Name

SAF エンティティ名に 3 番目のノードとしてシステム SMFID を含めるかどうかを指定します。このオプションが適用されるのは、SAF エンティティクラスが定義されている場合のみです。

- オプション: Use System QUAL in Entity Name

SAF エンティティ名にリソースタイプに準ずる修飾子を含めるかどうかを指定します。サンプル修飾子の一部は、JES リソースタイプの JES2、または IMS リソースのサブシステム ID です。このオプションが適用されるのは、SAF エンティティクラスが定義されている場合のみです。

- オプション: SAF Exit Name

SAF の前に呼び出されるオプションのユーザ EXIT の名前。この EXIT にエンティティクラスおよびエンティティ名が渡されます。

- オプション: Access Entity Table Size (KB)

SAF アクセス エンティティテーブル (AET) の初期サイズ。この AET は、SAF コールに対する応答をキャッシュし、それ以降のコールが同じエンティティ名に対してそれらの応答を取得できるようにするために使用されます。AET の使用によってパフォーマンスは改善されます。AET のサイズは K で指定されます。AET のストレージは 2G を超えて指定されます。値にゼロを指定した場合、AET は使用されません。

追加されたセキュリティ リソース

セキュリティリソースが機能強化され、以下の新規リソースが追加されました。

JESGROUP

JES ジョブクラス グループ。

REXX 環境

CA SYSVIEW REXX 関数が機能拡張されました。

追加された REXX 関数

CA SYSVIEW REXX 関数が機能強化され、以下の新規コマンドが追加されました。

- ABEND - REXX EXEC で強制的に異常終了します。
- BLDPARM - 指定された文字列に対して、標準的な CA SYSVIEW コマンド文字列パラメータを返します。
- MCCOMP - マスク文字によって、パターン文字列を引数文字列と比較します。

ユーザ定義ディスプレイ

CA SYSVIEW ではユーザ専用のコマンド ディスプレイが作成できます。以下のプロセスを使用して、ディスプレイを作成します。

1. ユーザ コマンド ディスプレイを構築するには REXX を使用します。
2. REXX EXEC を呼び出すには、RXDISP コマンドを使用します。
3. REXX スタックのキューに格納されたデータを使用して、CA SYSVIEW ディスプレイを作成します。

ディスプレイは単純なテキスト行か、または拡張属性を使用したフォーマットで作成することもできます。

ユーザ ディスプレイは以下の機能をサポートできます。

- 拡張属性
- オンライン ヘルプ
- ライン コマンド
- 選択
- ソート

ユーザ定義コマンド

ユーザが定義するコマンドが機能強化されました。

ユーザコマンド定義

ユーザコマンド定義が機能拡張され、ヘルプメンバをユーザコマンドに関連付けることができるようになりました。

```
DEFINE          commandname
  MINlen        nn
  DEScription    ' '
  HELP           member
  CMDstring      string
ENDDDEFINE
```

製品で提供されているサンプルユーザコマンド

CICSData

CICS データ収集ダッシュボード

DASHboard

ダッシュボードの表示

FILEList

Multi-DSN ディレクトリ

GOTOcics

CICS 領域へ移動

LOAN

ローン計算機能

LOGOFF

製品のログアウト

MQCLUSTERTopic

クラスタ MQ トピック オブジェクト

MQLOCALTopic

ローカルで定義されている MQ トピック オブジェクト

NEWCHELP

ライブラリ キャッシュは **HELP** ライブラリを再ロードします

NEWCPARM

ライブラリ キャッシュ再ロード パラメータ ライブラリ

NEWCTEMP

ライブラリ キャッシュ再ロード テンプレート

PROBLEM

問題行の選択

STARTSYSVIEW

SYSVIEW メイン アドレス空間の開始

STOPSYSVIEW

SYSVIEW メイン アドレス空間の停止

STP

サーバ時間プロトコル

SYSVDATA

SYSVIEW データ収集ダッシュボード

SYSVZIIP

SYSVIEW zIIP 使用状況ダッシュボード

TOPCPU

トップ 10 の CPU アドレス空間

UNIQflds

一意のフィールド

WARNIng

警告行の選択

ダッシュボード

以下のタスクを行えるようになったため、ダッシュボードでパフォーマンス管理およびトラブルシューティング機能が強化されました。

- カスタマイズされた画面ビューを作成する。
- さまざまな CA SYSDVIEW ソース (CICS、MQ、DATACOM、IMS、JES および z/OS) からのデータを組み合わせる。

ダッシュボードは、ウィンドウと呼ばれる水平領域で構成されます。また、各ウィンドウはペインと呼ばれる 1 つ以上の領域に分割されます。ウィンドウ ペインには複数の CA SYSDVIEW およびユーザ コマンドを表示できます。

詳細については、オンライン ヘルプ トピック「Dashboards」を参照してください。

ダッシュボード定義構文

ダッシュボード定義構文が機能強化され、オプションを処理する新規ウィンドウが追加されました。

OPTIONS ステートメント

OPTIONS ステートメントが DEFINE WINDOWS ステートメントの後にある場合、または最初の DEFINE PANE ステートメントの前にある場合、これらのオプションがウィンドウに適用されます。

- ADDBLANK - ブランク行をウィンドウ内の各ペインの最下部に追加します。これがそれに続くウィンドウとの区切りになって、ダッシュボードが見やすくなります。

ペイン オプション INFO

このペイン オプション INFO が INFO(s,e) としても指定できるようになりました。ダッシュボード トピックでは以下のように記述されます。

- INFO, INFO(s,e) - 情報行をペインへ追加します。デフォルトでは、これらの行は表示されません。

形式 INFO(s,e) は情報行のサブセットを表示するために使用できます。's' は開始行番号で、'e' は終了行番号です。パラメータも以下のように指定できます。

- INFO(s) - 情報行の 's' 行から最後の行までを表示します。
- INFO(e) - 情報行の 1 行目から 'e' 行までを表示します。